

2025年度版

JLA

WOMEN'S LACROSSE

OFFICIAL RULE BOOK

日本ラクロス協会公認女子競技用ルールブック
UNDER THE SUPERVISION OF
JAPAN LACROSSE ASSOCIATION

目次

ルール 1	フィールドマーキング.....	4
ルール 2	ゴール	8
ルール 3	クロス.....	10
ルール 4	ボール	12
ルール 5	チーム	13
ルール 6	ユニフォームおよび装具.....	14
ルール 7	キャプテン.....	16
ルール 8	コーチ.....	16
ルール 9	審判員.....	16
ルール 10	スコアラーとタイマー	18
ルール 11	得点	20
ルール 12	試合時間.....	21
ルール 13	試合の開始および再開.....	23
ルール 14	交代	27
ルール 15	アウトオブバウンズ.....	29
ルール 16	スロー.....	31
ルール 17	ゴールサークルルールとペナルティ.....	32
ルール 18	リストレインィングルールとペナルティ	36
ルール 19	マイナーファールルールとペナルティ	38
ルール 20	メジャーファールルールとペナルティ.....	42
ルール 21	アドバンテージフラッグ.....	49
ルール 22	ミスコンダクト	51
ルール 23	カードによる警告と退場.....	53
ルール 24	用語の定義	56
付録 A	ジェスチャー	60
付録 B	メジャーファールの処置一覧	62
付録 C	フィールドクロスのパーツ名	62

- ・本ルールブックは World Lacrosse より発行されたルールブックを翻訳・調製し、制定したものです
- ・2024 年度版 JLA ルールブックから大きな変更がある箇所については太字で示しています
- ・従来の JLA ルールブックの記載を World Lacrosse の内容に合わせた為、章立てや表現等の変更が発生しています
- ・ルールに加え、審判員、コーチ、選手のために、ルールの解釈を明確にするためのガイダンスセクション（斜体）を設けています

ルール 1 フィールドマーキング

1. すべてのフィールドラインの測定は、ライン幅の中心から中心で測定する。
2. プレーイングエリアは、施設等の事情により変更できる。
3. プレーイングエリアは、エンドライン間の長さが 91.4〜100m、サイドライン間の幅が 48〜60m の長方形の境界線が引かれる。フィールドのコーナーを示すために 4 つのコーンを使用してもよい。(図 1) フィールドのラインはすべて 5〜10cm の幅でマークされる。すべてのラインは白く塗ることが推奨される。フィールドに無断でマークやラインを追加することはできない。
4. プレーイングエリアは平坦で、石、ガラス、突起物などがあってはならない。サイドラインとエンドラインからは、少なくとも 2〜4m の距離をとり、樹木、茂み、陸上トラック、フェンス、施設付帯の観客席、スタンドなどの自然物や人工物がいないこと。
i 観客席は原則としてサイドラインから 4m 以上離れなければならない、チームベンチやスコアテーブルの真後ろには観客は入ることはできない。エンドラインの後方には、ボールが飛び込まないように保護された常設の座席がない限り、観客を入れることはできない。
5. ゴールラインおよびゴールライン延長線 (GLE) は、フィールド幅の中心点と、エンドラインから 12m の地点で、エンドラインと平行に引く。ゴールラインの長さは 1.83m とし、幅 5cm とする。ゴールライン延長線は、ゴールラインの中心点から 15m を測定し、3m から 15m までをマークする (図 1 およびルール 2) 。
6. マーキングエリアは、ゴールラインの中心点から半径 15m の半円を測り、ゴールライン延長線上にそれぞれマークする。(図 1、図 2)
 1. A マーキングエリアの内側、中央のハッシュから 4m に 15cm の長さの 7 つのハッシュマークが付けられている。(図 2 ならびに図 9)
7. フィールドの両端にある 2 つのドットは、エンドラインから 2m の位置で、ゴールライン延長線上にある 15m のマーキングエリア半円に合わせて測り、直径 15cm の印を付ける。ゴールサークルは、ゴールラインの中心点から測定し、半径 3m でマークする。(図 1)
8. リストレイニングラインは、各ゴールラインから 22m の距離に引く。このラインは、フィールド両端まで引かれる。22m は、ゴールラインの後ろ側の端から、リストレイニングラインのミッドフィールド側の端までの距離で測る。(図 1)
9. フィールドの中心点からリストレイニングラインと平行に、長さ 3m のセンターラインを引く。(図 1)
10. フィールド中央には、半径 9m となるセンターサークルを引く。(図 1)
11. **15m マーキングエリア (MA)**のマーキング方法 (図 2)
12. 交代エリアは、フィールドの長さの中心点から 13m (中心点の左右 6.5m)、サイドラインと平行に 4m を計測する。(図 3)

13. コーチウォークは、サイドラインと平行に縦 4m とし、横方向は交代エリアからリストレイニングラインまでとする。
14. プレー中、コーチウォークに入ることができるコーチは最大 4 名までとし、フィールド審判員がコーチウォーク内を走る場合は、フィールド審判員を優先し、進路を譲らなくてはならない。(図 3)
2. チームベンチエリアは、コーチウォークと平行に、コーチウォークの後ろ、縦 5m とし、交代待機エリアからリストレイニングラインまでとする。コーチウォークに入れる最大 4 名とは別の選手およびその他のチーム／ベンチスタッフは、チームベンチエリア内に留まり、プレー中にコーチウォークに入ることはいできない。選手ベンチ／椅子は、サイドラインから 7m 以上、かつ交代エリアから 4m 以上離れていなければならない(図 3)
15. 交代ゲートは、交代エリアのサイドライン部分であり、13m 間隔で置かれた 2 つのコーン／マーカーによって定義される。(図 3)

計測

A から B = 3m ゴールサークル、半径 3m

A から C = 15m マーキングエリア、半径 15m

A から D = 15m ゴールライン延長線、ゴールサークルから マーキングエリアアークまで表示

B から B = 6m ゴールサークル、直径 6m

B から D = 12m ゴールライン延長線

D to D = 30m マーキングエリア半円、直径 30m

長さ 15cm の 7 つのハッシュマークを、中央のハッシュを起点に 4m 間隔でマーキングエリア内に表示。

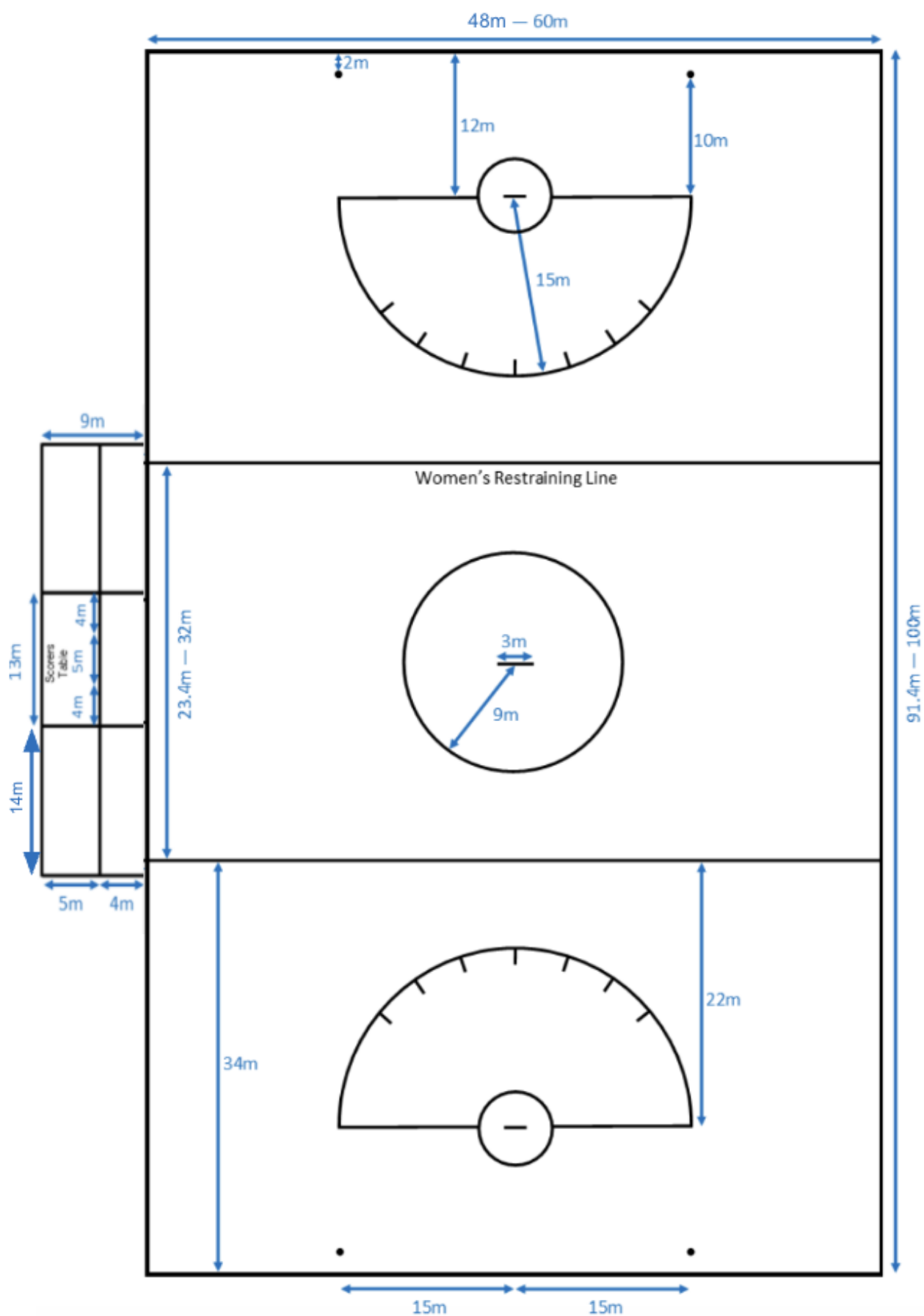


図
1 - フィールドマーキング
i フィールドにマークを追加することはで

きない。

Dot ●

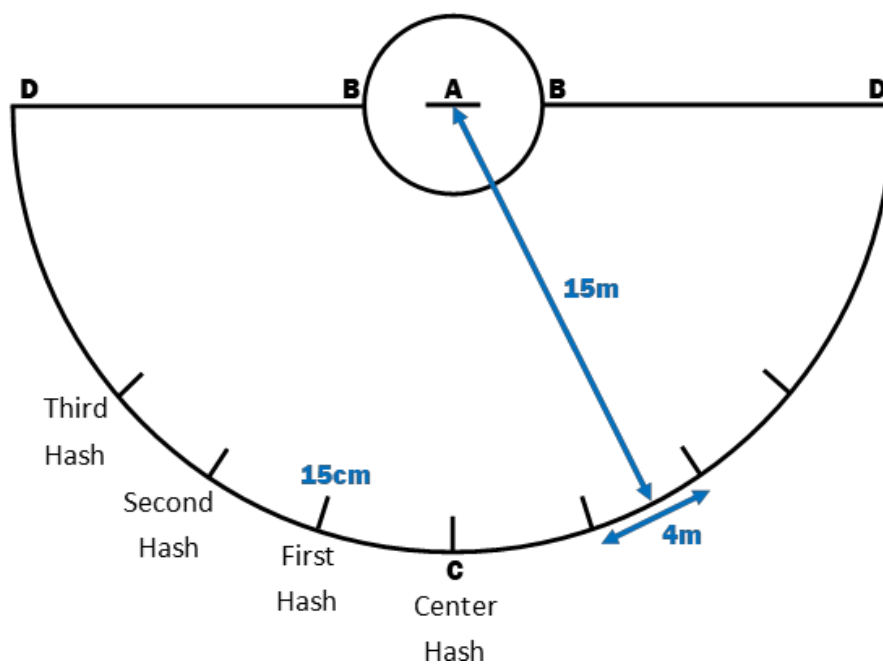


図 2-15m マーキング・エリア(MA)のマーキング方法

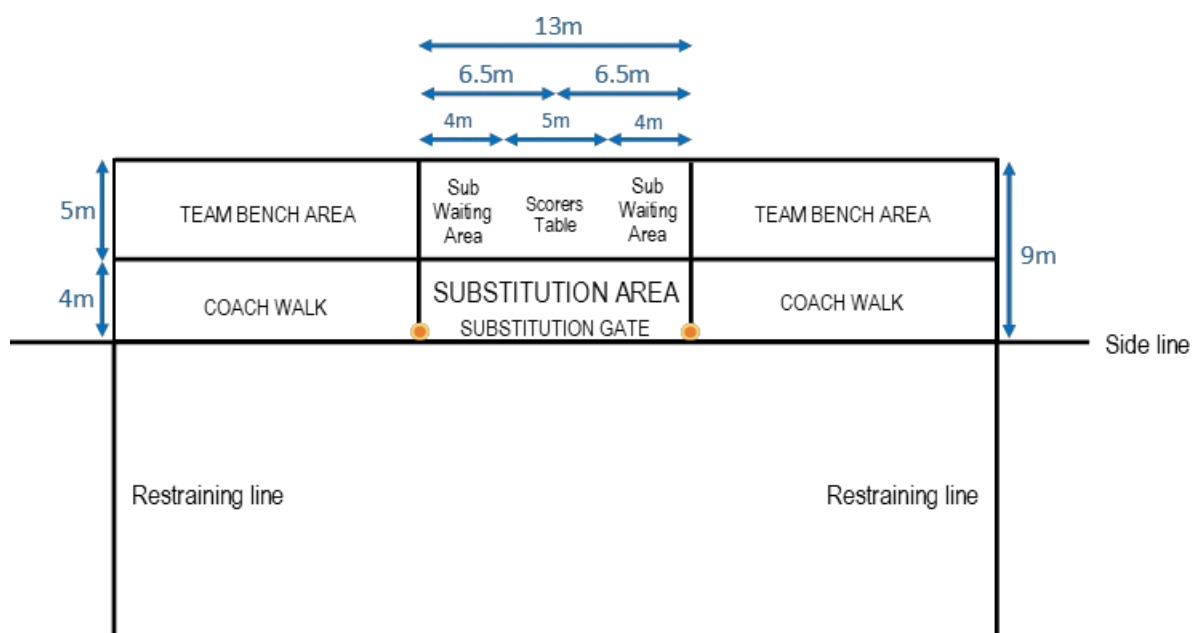


図 3 - 交代エリア、スコアラーズ／タイマーズテーブル、チームベンチエリア

ルール 2 ゴール

1. 各ゴールサークルにはゴールケージが設置される。
2. ゴールケージは、2 本の垂直の支柱/パイプを剛性のあるクロスバーで上部を結合したものである。柱/パイプの間隔は 183cm で、上部の水平クロスバーは地面から 183cm となる。すべての寸法は内寸。ゴールポスト／パイプとクロスバーは 5.1cm 角または直径 5.1cm で、白またはオレンジ色に塗らなければならない。
3. 独立型ゴールをする場合、グラウンドレベル、サイドバック、センターバックのサポートはすべて、ボールの跳ね返りを制限する素材で全長にわたってパッドを入れなければならない。
 - 3.A ボールの跳ね返りを防ぐために、ゴールに平らな、または角度のある地面を支えるパッドを付ける必要はない。ゴールの角には、ゴールが得点されるのを妨げるような支柱を置くべきでない。(図 5)
4. メッシュの綿またはナイロンのゴールネットは、菱形 4cm 以下でなければならない。ゴールネットは、ポスト／パイプ、クロスバー、およびゴールラインの中央から 2.1m 後方の地面にある点にしっかりと取り付けられていなければならない。ネットはボールの跳ね返りを制限するように張ること。
5. ゴール裏のネットを支えるいかなる構造物も、ゴールキーパーとディフェンダーがゴールサークルの後方で自由に動けるようにしなければならない。



図 4 - ゴール・サークルとゴール・ケージ

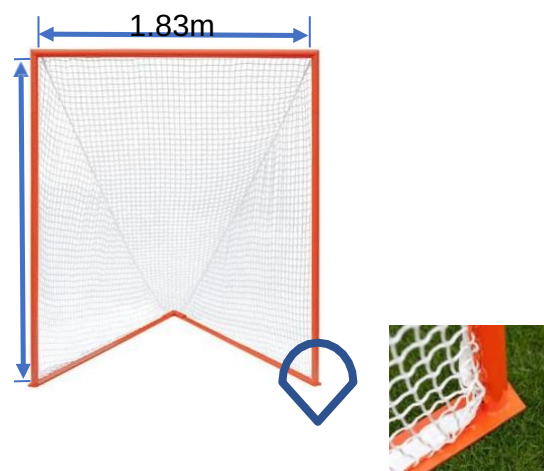


図 5 - ゴールケージとネット

6. (参考) ゴールスカートは許される。

ワールドラクロスでは、ゴールスカートはゴールのネットに直接取り付けることを提案し、ネットの内側、外側、または両側に取り付けることができる。ゴールスカートはほぼ三角形でなければならない。ゴールのネットのドレープに沿った形とし、スカートの高さは最も高いところで 61cm 以下とする。(図 6)

- 6.A ゴールスカートは、ゴールポストから最低 15cm、地面と平行に走る底板から 10cm 上の位置でネットに固定され、ゴールエリア内のボールの視界を妨げないようにしなければならない。(図 6)

6.B また、可能であれば、ゴールスカートは半透明とし、ゴールエリア内のボールを見やすくする。(図 6)

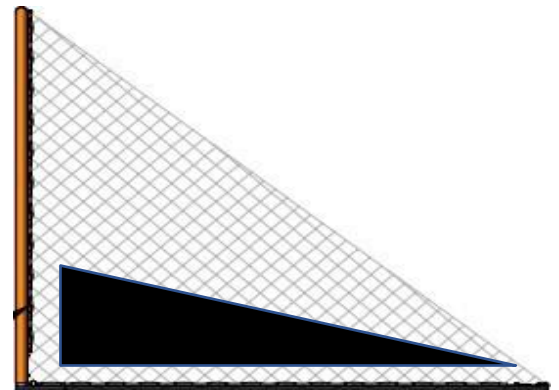
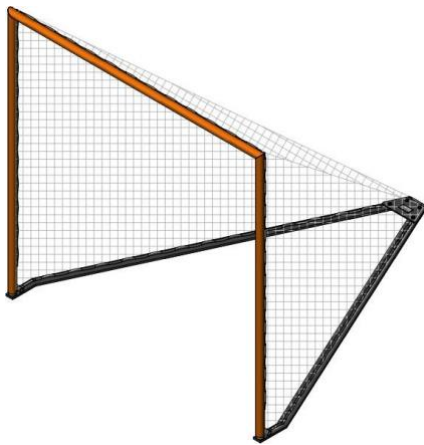


図 6 - ゴールケージとゴールスカートのルール

ルール 3 クロス

A ルール

3.A.1. クロスの仕様のうち、試合中に審判員、コーチ、選手にとって必要かつ有用なものだけを以下に記載する。

3.A.2. フィールドクロス

- 3.A.2.a フィールドクロスの仕様の主な意図は、ボールがヘッドとポケットのすべての部分で自由に動くことを保証することである。選手に不当な利益を与えるような方法で改造されたクロスは違法である。
- 3.A.2.b フィールドクロスのヘッドは、木製、プラスチック製、グラスファイバー製、ナイロン製、革製、ゴム製、および/またはその他の合成素材で構成される。
- 3.A.2.c フィールドクロスのヘッドは三角形である。
- 3.A.2.d ヘッド上部の最も広い部分で、プラスチック/モールドヘッドのクロスの壁間の内幅は最低 16cm、木製のクロスは 15～16cm。
- 3.A.2.e サイドウォールの内面には突起物や出っ張りがあってはならない。
- 3.A.2.f フィールドクロスのシャフトは原則真っ直ぐとし、木製、金属合金製、またはその他の複合材で構成される。クロスは、鋭利な部分や突起物があってはならず、選手にとって危険なものであってはならない。

■ ベントシャフトは、対応するように特別に設計されたヘッドにのみ使用しなければならない。「ベント：曲がった」シャフトはヘッドおよびメーカー固有のものである。ストレートシャフト用に設計されたヘッドをベントシャフトと組み合わせた場合、合法ではない。

- 3.A.2.g プラスチックで成形されたクロスのヘッドをシャフトに取り付けるには、頭の丸い金属ネジが使用される。すべてのシャフトのエンドにはエンドキャップが付けられるか、テープが巻かれるか、木製または複合素材の場合は滑らかにやすりがけされていなければならない。

■ エンドキャップの形状は問わない。

- 3.A.2.h フィールドクロスの全長は、90～110cm。クロスの全長にはエンドキャップも含まれる。
- 3.A.2.i すべてのフィールドクロスのポケットは、2～5 本の革製および/または合成繊維製の縦紐と 8～12 ノット/ステッチの横紐で張られているか、またはポケットがメッシュになっている。クロスの縦紐の余剰部分は、10cm 以下の長さにするか、クロスのハンドルに固定しなければならない。ポケットとして編み込んだ紐が、クロスのヘッドフレームからはみ出す場合、はみ出す部分は、10cm 以下の長さにしなければならない。
- 3.A.2.j それぞれの紐は 1 つの素材（革、合成皮革、またはナイロンコード）で作られ、ヘッドの全長にわたっていなければならない。スクープとボールストップに近い部分には、それぞれの紐をヘッドに取り付けられるようにするため、2 つ目の素材を使用してもよい。
- 3.A.2.k フィールドクロスでは 2 本より多く、別々のシュート/スローtringを使用しない。平紐をシ

ュート／スローの紐として使用してはならない。

3.A.2.l ポケットを構成するすべての部品は、編みこまれていることまたはステッチによって一体化されていなければならない。

3.A.2.m フィールドクロスは次の条件を満たしている場合使用可能：

i クロスは、使用者が、基準を満たしたもの(3.A.2.a~l)を購入している前提のもと、審判員が試合前にクロスをチェックする際は 3.A.2.m に記載の内容を、確認することで、合法であると判断できる。

3.A.2.m.i 本ルールに記載されている基準に適合している。またはラクロス用に製作ならびに販売されているクロスである。

3.A.2.m.ii 水平に保持されたクロスのポケットにボールを落としたとき、どの位置でもボールの上端が木製またはプラスチック製のサイドウォール全体の上端より上に見えていなければならない。

3.A.2.m.iii ボールが自由に転がることを確認するために、審判員はクロスを両方向に傾け、ボールがボールストップからスクープへ、そしてクロスの外へ自由に動くようにする。ボールは、木製のクロスの壁の間、ガードの下、ブリッジの下、ボールストップの中、またはプラスチック/モールドヘッドのクロスの壁の下に挟まってはならない。クロスを逆さまにしたとき、ボールがクロスのポケットから容易に落ちなければならない。

i ボールが自由に転がらない場合は、クロスのポケットは表だけではなく裏も含めて、審判員はクロスの詳細にチェックする。

i 使用している中で劣化したり、形状が変化したりすることも想定されるため、危険がないか、審判員はクロス、装具を触って確認する。

3.A.3. ゴールキーパークロス

3.A.3.a クロスは、木製、プラスチック製、グラスファイバー製、ナイロン製、皮革製、ゴム製、ガット製、および/またはその他の合成素材で作られる。

3.A.3.b クロスのシャフトはストレートで、木製、金属合金製、またはその他の複合材で構成される。ヘッドをシャフトに取り付けるには、頭の丸い埋め込み式の金属ネジを使用しなければならない。すべてのシャフトのエンドにはエンドキャップが付けられるか、テープが巻かれるか、木製または複合素材の場合は滑らかにやすりがけされる。

i エンドキャップの形状は問わない。

3.A.3.c クロスは、鋭利な部分や突起物があってはならず、選手にとって危険なものであってはならない。

3.A.3.d クロスの全長は 90～135cm。

3.A.3.e クロスのポケットは、6～7 本の革製または合成繊維製の縦紐と 8～12 本の結び目／ステッチの横紐で張られている場合もあれば、メッシュの場合もある。ボールストップよりハンドル側にある紐の余剰部分は、10cm 以下の長さにするか、ハンドルに固定しなければならない。

3.A.3.f ゴールキーパー用クロスは、2 本以上のシュート／スロー用ストリングを持つことができ、平紐

をシュート／スロー用ストリングとして使用することができる。クロスのパケットに入れるシュート／スロー用ストリングのデザインや位置には制限はない。パケットとして編み込んだ紐がクロスヘッドのフレームからはみ出す場合、はみ出す部分は 10cm 以下の長さにしなければならない。

3.A.3.g ゴールキーパーのクロスは、次の条件を満たしている場合使用可能：

i クロスは、使用者が、基準を満たしたもの(3.A.3.a~g)を購入している前提のもと、審判員が試合前にクロスをチェックする際は 3.A.3.g に記載の内容を、確認することで、合法であると判断できる。

3.A.3.g.i 本ルールに記載されている基準に適合している。またはラクロス用に製作ならびに販売されているクロスである。

3.A.3.g.ii ボールがヘッド/パケットのすべての部分で、パケットの上から下まで全長にわたって自由に動く。

i ボールが自由に転がらない場合は、クロスのパケットは表だけではなく裏も含めて、審判員はクロスの詳細にチェックする。

i 使用している中で劣化したり、形状が変化したりすることも想定されるため、危険がないか、審判員はクロス、装具を触って確認する。

B ペナルティ

3.B.1.a フィールドクロスのパケットのチェック：フィールドクロスのパケットをチェックするために、審判員はプレー中いつでもタイムアウトを取ることができる。

3.B.1.b フィールド上にいる選手は誰でも、審判員に相手側クロスのパケットのチェックを要求することができる。申請できるタイミングは自チームがデッドボールを持っているとき、またはゴールが決まった直後のみ。

3.B.1.c フィールド選手のクロスにボールがはまった場合、そのクロスは仕様に適合しない。審判員はタイムアウトを取り、不正なクロスをスコアラーステーブルまで取り除く。プレーを再開するためには、ボールに最も近い相手側プレーヤーに、マイナーファールによるフリーポジションが与えられる。(19.a.5, 19.a.8, 19.a.9)

ルール 4 ボール

4.A.1. ボールは、滑らかで均一なエラストマー製で、白、オレンジもしくは黄色のゴム製

※エラストマーとはエラストマーとは粘弾性を持ち小さい分子間相互作用を持つために、他の材料と比較して、小さいヤング率と大きい破壊ひずみを持った高分子の総称のこと

4.A.1.a ボールの円周は 20～20.3cm 以下とする。

4.A.1.b ボールの重さは 142～149g 以下

i ボールは National Operating Committee on Standards for Athletic Equipment(NOCSAE：NCAA ルールにも使われている北米のスポーツ装具検査機関) Standard に準拠したものでなければならない。

ルール 5 チーム

- 5.A.1. 試合は 2 チーム間で行われる。
- 5.A.2. 同時にフィールドに立つことができる選手の数 は 10 名までとする。うち 1 名はゴールキーパーであっても良い。
- 5.A.3. JLA 主催試合におけるチーム構成に関する制約は、各大会等主催者が作成する大会規約が優先するものとする。

■ ゴールキーパーなしでプレーすることを選択した場合、装具をつけていないフィールド選手はゴールサークルに入ることができるが、ルール 17 ゴールサークルルールおよびペナルティに完全に従わなければならない

ルール 6 ユニフォームおよび装具

- 6.A.1. 保護具を含みかなる装具も、以下のルール 6に従わない限り、使用することはできない。審判員は、その装具が他の選手にとって危険でないことを判断する。
- 6.A.2. フィールド選手は、アイガードを必ず着用する。フィールド選手は、フィットしたグローブ、ノーズガードを着用することができるが、ヘッドギアやフェイスマスクを着用することはできない。
- 6.A.3. アイガードの着用を選択したフィールド選手は、すべての安全面に適合するアイガードのみを着用することができる。

i ASTM Int'I F803 の安全性に適合するアイガードのみ着用できる。

- 6.A.4. 飛散防止加工が施されたフレームやレンズの着用を強く推奨する。
- 6.A.5. ゴールキーパーを含むすべての選手は、上あごのすべての歯を覆う、専門的に製造された口腔内マウスガードを正しく着用しなければならない。
 - 6.A.5.a マウスガードは、無色または白色以外の見やすい色でなければならず、歯の模様があってはならない。容易に目視できる観点から、無色や白色が大半を占めるものは使用できないが、一部に白が含まれたり、劣化により一部が白くなっているものはこの限りではない。
 - 6.A.5.b マウスガードはプロテクションを低下させるような改造をしてはならず、フィールド選手は突起したタブを取り除かなければならない。
 - 6.A.5.c 真に医学的な必要性が保証されている追加の保護具は、試合前に評価され、その保護具が他の選手にとって危険でないことを審判員が認める場合に限り、着用することができる。すべての保護具は、ぴったりとフィットし、必要な場合にはパッドが入っていないはず、過度の重量があってはならない。
- 6.A.6. 選手は、情報がはっきりと見えるようにしっかりとテープで固定されたメディカルアラートジュエリーと、ぴったりとフィットする布製のスウェットバンドを着用することができる。それ以外の柔らかいアクセサリー、ネックレス、イヤリング、プレスレット、腕時計は外さなければならない。結婚指輪や宗教的／儀式的なアクセサリーはテープでしっかりと固定するか、取り外すこと。平らなバレッタやヘアスライドは合法である。柔らかいネオプレン製のつばのある帽子／バイザーは着用可。ヒジャブは着用してもよい（スポーツ用ヒジャブが望ましい）。審判員は、いかなる髪や体の装飾も、選手や他の選手にとって危険であると判断し、その選手をフィールドから退場させることができる。その場合、マイナーファールとして罰せられる。
- 6.A.7. 違法なアクセサリーを隠すためにスウェットバンドを着用してはならない。
- 6.A.8. フィールド選手は、ゴールキーパーを除き、ユニフォームを着用しなければならない。(6.A.14)
- 6.A.9. フィールド上で着用される目に見える衣服はすべて、チームのユニフォームの一部とみなされる。

i この裁定は医療用スリーブには適用されない。

- 6.A.10. ユニフォームシャツの下に着用するすべての下着は、ユニフォームシャツと同系色でなければならない。
- 6.A.11. キルト／スカート／ショーツの下に着用するすべての目に見える衣服は、キルト／スカート／ショーツと同じ主色であるか、単色の濃い色でなければならない。

- 6.A.12. **見える下着を着用しているチームのすべての選手は、同じ色の無地でなければならない。**
- 6.A.13. ゴールキーパーのシャツ／トップスは、フィールド選手のシャツ／トップスと同じ色でなければならない、胸パッドと肩／腕パッドの上に着用しなければならない。
- 6.A.14. ゴールキーパーのユニフォームのキルト／スカート／シャツ／ショーツ／ボトムの主色は選手のキルト／スカート／ショーツの色と同じか、濃い単色であること。
- 6.A.15. すべての選手とゴールキーパーのユニフォームシャツには、前面と背面に同一のフォントで番号を付けなければならない。また、背番号の色とシャツの色のコントラストが明確でなければならない。
- 6.A.16. チームが柄物のシャツを着用する場合は、無地でコントラストのはっきりしたカラーブロックの背景に数字を重ねなければならない。
- 6.A.17. シャツの前面中央の数字は高さ 10cm 以上、背面中央の数字は高さ 18cm 以上で正方形である必要はない。なお各選手のユニフォームの前と後ろの番号は同じでなければならない、同一チーム内で重複した番号を使用することはできない。
- 6.A.18. 選手は、プラスチック、金属、革、またはゴム製のクリート／スタッドが付いたシューズを着用することができる。スパイク（陸上競技用）は認められない。その構成にかかわらず、すべてのスタッド／クリートの露出面は平滑でなければならない。フラットソールのシューズを着用することもできる。

ゴールキーパー

- 6.A.19. ゴールキーパーは、飛散防止加工された透明または**着色された**バイザーをヘルメットにしっかりと装着することができる。
- 6.A.20. ゴールキーパーはチェストパッドまたはボディパッド、あごひもを締めるヘルメットやフェイスマスク、スロートプロテクターを着用しなければならない。スロートプロテクターがヘルメットから垂れる距離はボールの直径以下でなければならない。付属のスロートプロテクターに加え、ラップアラウンドタイプのスロートプロテクター／カラーを着用してもよい。
- 6.A.21. ゴールキーパーは、パッド入りのグローブ、ショルダー／アームパッド、レッグパッドを着用することができる。すべてのパッドはパッドの厚み以上にゴールキーパーの体の幅を広げないこと。
- 6.A.22. パッドの厚さは 3cm まで。パッド入りのグローブは、紐がついているものは、袖口でしっかりと結ばれていなければならない、ボールが挟まるような隙間があってはならない。

ルール 7 キャプテン

- 7.A.1. 各チームは、キャプテンを 1 名指名する。指名されたキャプテンは、腕章を着用することができる。指定されたキャプテンの背番号は、チームの公式スコアシートに記載される。
- 7.A.2. 指名されたキャプテン：
 - 7.A.2.a 主審とミーティングを行い、どちらのサイド or エンドを守るかのコイントスを行う。アウェイチームのキャプテンがすべてのコイントスをコールする。
 - 7.A.2.b フィールド内では、ゴールが決まった後、審判員に直接タイムアウトを要求することができる。
 - 7.A.2.c チームのタイムアウト中、各クォーター間の休憩中、および試合直後に、審判員にルールの説明を求めることができる。

ルール 8 コーチ

- 8.A.1. コーチ（コーチ不在時にはキャプテン）は：
 - 8.A.1.a 天候やその他の状況により試合続行が困難な場合は、審判員と協議をする。(12. A. 8).
 - 8.A.1.b 各クォーター間の休憩中および試合終了直後に、審判員にルールの説明を求めることができる。
 - 8.A.1.c 審判員（テーブル審判員：T0）を通じてタイムアウトを要求することができる。(12. A. 10)

ルール 9 審判員

- 9.A.1. JLA が定める手続きとガイドラインに従ってルールを施行する。審判員は、安全で公正なプレーを判断することのみに責任を負い、審判員の判断は最終的なものであり、上訴することはできない。
- 9.A.2. 試合前に、グラウンド、ゴール、ボール、クロス、ユニフォーム、シューズ、アクセサリ、すべての装具がルールに適合しているか点検する。
- 9.A.3. 医療的な見地から装着が必要なサポータやプロテクターを装着することについて一方のチームから申し出があった場合はもう一方のチームのコーチならびにキャプテンに対して使用の許諾を得る。
- 9.A.4. オフィシャル席の各人員がそれぞれの責任を理解していることを確認する。
- 9.A.5. 主審はすべてのコイントスをキャプテンとともに行う（7.A.2.a）。
- 9.A.6. 試合時間やクォーターならびにクォーター間のブレイクタイムの長さについて、キャプテンやコーチと合意する。
- 9.A.7. 天候やその他の酌量すべき事情により、試合の続行が困難な場合は、コーチ（不在時にはキャプテン）と協議する。試合を中断または中止しなければならない場合、主審の申し出により、イベントディレクターは最終的判断を行うものとする。

- 9.A.8. JLA 女子ルール JLA 公認女子競技ルールに則って審判をする。
- 9.A.9. 得点、選手に対する警告や退場をスコアラーに報告する。
- 9.A.10. チームタイムアウト時にキャプテン、クォーター間と試合終了直後にキャプテンとコーチにルールの明確化を求められた場合は、応じなければならない。
- 9.A.11. スコアシートに署名し、試合を承認する。
- 9.A.12. 白黒の縦じま（2.5cm）シャツまたはジャケット、黒のキルト/スカートまたは適切な長さの黒ショーツまたは黒ロングパンツを着用すること。黒のバイザー/帽子、黒の短いソックスまたは黒の長いソックスの着用は認められる。その他の衣類やアクセサリは黒でなければならない。全ての審判員が同じような装いであることが推奨される。

ルール 10 スコアラーとタイマー

A スコアラー

- 10.A.1. 試合開始 20 分前に、両チームの名簿、氏名、シャツ番号をチームスコアシートに記録する。
- 10.A.2. ゴールとタイムアウトを正確に記録し、得点を正しく表示する。
- 10.A.3. すべてのカード、選手が出場停止になった試合時間、選手またはその交代選手が試合に再び出場できる時間を記録する。
- 10.A.4. カードを受けた選手とそのコーチに、退場時間がいつ終了するかを伝える。(23.B.2)

B タイマー

- 10.B.1. 試合および延長戦が行われる場合は、各クォーターの時間およびクォーター間の時間を審判員に確認する。
- 10.B.2. 各クォーターの時間を計る。(12.A.1)
- 10.B.3. 各クォーター間の休憩時間を計る。(12.A.2)
- 10.B.4. 各クォーターまたは延長開始時に、審判員の笛を合図に時計をスタートさせる。
- 10.B.5. すべてのタイムアウト、負傷、カード、チームタイムアウト、またはその他審判員が時計を止めなければならないと合図したときは、審判員の笛で時計を止め、それに応じて審判員の笛で時計を再開する。(12.a.6, 12.a.7, 12.a.8, 12.a.11, 12.a.12, 12.a.13)
- 10.B.6. 第 1、2、3 クォーターが残り 30 秒、第 4 クォーターが残り 2 分になったら、審判員とコーチに知らせる。
 - 第 1、2、3 クォーターでは最後の 30 秒より前、第 4 クォーターでは 2 分より前にプレーが停止された場合、プレーが再開されていない場合は、タイマーは 30 秒（第 1、2、3 クォーター）または 2 分（第 4 クォーター）に達した時点で時計を止める。
- 10.B.7. 90 秒のチームタイムアウトの時間を計り、残り 30 秒になったら審判員とコーチに知らせる。(12.A.11)
- 10.B.8. 各クォーターの最後の 10 秒を審判員 (TO) の側でカウントダウンし、試合の終了を知らせる。時計が見える場合はこの必要はない。
 - 審判員(TO)の笛（3回短く吹く）で終了を示す。(12.A.5)
 - 各チームのコーチ、スタッフが試合の残り時間を確認してきた場合、答える必要はない。ただし、試合の運営上支障のない範囲で、タイマー側から正確な残り時間を両チームに対して発信することが推奨される。
 - 各チームのコーチ、スタッフがタイマーやスコアラーの執務を妨害したと TO が判断した場合は、カードの提示を行うことがある。
- 10.B.9. 各休憩時間の残り時間が 1 分になったら、審判員とコーチに知らせる。(19.A.21)
- 10.B.10. 負傷選手の回復のための時間を計る。
 - 10.B.10.a フィールド選手は 2 分以内の回復時間が与えられる。(12.A.12)

- 10.B.10.b ゴールキーパーは 5 分以内の回復時間を与えられる。(12.A.12)
- 10.B.11. ペナルティー時間を計る
 - 10.B.11.a イエローカードが提示された場合は 2 分。
 - 10.B.11.b イエロー／レッドカード、レッドカードが提示された場合は 5 分。
 - 10.B.11.c ストレートレッドカードが提示された場合は 10 分。
- 10.B.12. ペナルティー時間が満了する前に、退場選手または交代選手がフィールドに戻ってしまった場合、最も近い審判員にその旨を伝える。その場合、その選手またはそのチームは、ペナルティー時間は始めからカウントされる。(23.B.8)
- 10.B.13. ペナルティー時間が次のクォーターまたは延長戦に持ち越されるかどうかを審判員に伝える。

ルール 11 得点ゴール

ゴール

- 11.A.1. ゴール数が多いチームが勝利となる。試合時間終了時に同点であった場合は引き分けとなる。勝敗を決定しなければならない場合は、延長戦が行われる。(ルール [12.A.15](#)).
- 11.A.2. 攻撃選手のクロス、または、守備選手のクロスあるいは体によって、ボールが進められ、2本のゴールポスト、クロスバー、ゴールラインで構成される面を、ボールが前面から完全に通過した場合に得点が認められる。

以下の場合、得点は認められない

- 11.A.3. ボールがゴールに入ったのが、審判員の笛が吹かれるか、ホーンが鳴った後である。
- * 例外 シューティングスペースの侵害- ルール [20.B.7](#)
- 11.A.4. 選手以外(審判員も含む)によってボールが進められゴールに入った。(16.A.3.a)
- 11.A.5. ボールが攻撃側の選手の体の一部に当たってゴールに入った。
- 11.A.6. ボールがゴールラインを越える前に、シューターがゴールサークルラインを踏むか越えるか、または他の攻撃選手がゴールサークルに入った。
- 11.A.7. ゴールキーパーがゴールサークル内にいるときに、攻撃選手がゴールキーパーまたはそのクロスに接触すること。(17.A.2)
- 11.A.8. 審判員がシュートやフォロースルーに危険性があると判断する。
- 11.A.9. 攻撃側がフィールド上に不正な攻撃選手がいる間にボールがゴールに入る。(14.B.2.a)
- 11.A.10. 攻撃選手のイリーガルクロスからゴールにボールが入る。
- 11.A.11. シュートした選手が、審判員にクロスの確認を要求されたとき、クロスを直ちに地面におくか、近くの審判員にわたさなかった。(19.A.9)
- 11.A.12. シュートした選手または味方の選手が、クロスを落としたり審判員に渡したりする前に、クロスを何らかの方法で調整した。(19.A.9)
- 11.A.13. 攻撃側のゴールキーパーがシュートまたはその他の方法でゴールに入れる。(19.A.4)
- 11.A.14. 攻撃側がオフサイドのときにボールがゴールに入る。(18.B.8)
- i ゴールが決まった直後に、アクセサリーを身につけていたり、マウスガードをつけていなかったりする選手が発見された場合、そのゴールはカウントされる。プレーを再開するには、相手側がセンターライン上でマイナーファールフリーポジションを取る。(19.A.6)

ルール 12 試合時間

12.A.1. 試合時間は、クォーター制で、各クォーター15 分間とする。

12.A.2. 第 1・第 2 クォーター、第 3・第 4 クォーター間のクォーターブレイクタイムは最長 2 分、ハーフタイムは 10 分以内とする。

■ 試合時間、クォーターブレイクタイム、ハーフタイム、タイムアウトの時間、回数、延長戦の時間など、時間に関わる要件は、各大会等主催者が作成する大会規約が優先するものとする。

12.A.3. 第 1、第 2、第 3 クォーター終了後に攻撃する方向を交代する。

12.A.4. プレーが始まる時とプレーが終わる時、審判員は笛を鳴らす。試合は、初めのドロワー時の審判員の笛で開始される。試合は、ゴールが決まった後、およびクォーターブレイクごとに、ドロワーで再開される。場合によっては、スロー、フリーポジション、デッドボールタイムアウトのボールのある地点でプレーを開始または再開することもある。

12.A.5. 各クォーターと延長戦終了時、審判員は笛を鳴らす。

12.A.6. ルール 10.B.5 によるすべての停止時間に加え、ルール 13.A.9.h（セルフスタート）に定めるファールがあった場合、第 1、2、3 クォーターのラスト 30 秒間、ならびに第 4 クォーターのラスト 2 分間において、審判員の笛により時計は停止し、再スタートする。

■ 他の全ての選手が動くことができるときに、ボールを保持する選手にセルフスタートさせないことは明らかに不利である。クォーターや試合の終盤にファールを増やすことになる。

■ 第 1、2、3 クォーターのラスト 30 秒間、または第 4 クォーターのラスト 2 分までに、守備側のアドバンテージフラッグエリアおよびリストレイングラインファールでプレーが停止した場合、タイマーは第 1、2、3 クォーターであれば残り時間が 30 秒に達した場合、第 4 クォーターであれば残り時間が 2 分に達した場合、それぞれ時計を停止する

12.A.7. プレーは継続されるべきだが、審判員の裁量により、以下のような異常な状況が発生した場合、タイムアウトを取ることができる。クロスが壊れた時/フィールド上に動物が入ってきた時/ボールが紛失した場合、またはボールがバウンダリーを大きく超えてしまった場合/不意の笛が鳴る/試合の遅延、または観客の妨害等があった場合など。審判員はまた、病気、怪我、事故、警告カードの提示、クロスチェック、不正な交代選手の退場、不足の事態への対応等により試合時間を著しく失うと予想される事態が生じた時に試合時間を止めなければならない。

12.A.8. 天候やその他の酌量すべき状況により試合を継続することが危険となった場合、審判員はキャプテン/コーチと協議の上、試合の延期等について会場責任者に申し出を行う。この場合、会場責任者の判断が、最終判断となる。

12.A.9. 試合時間の 80%が経過していた場合、試合は有効とみなされる。(15 分間 × 4 クォーターの 80%は、48 分である。中断された試合（試合時間が 80%に達していない試合）が同日に続行された場合、中断されたポジションならびに時間からの試合再開となる。別日に延期となった試合については、最初から試合が行われる。

■ トーナメントの時間的制約に対応するため、中断された試合が別の日に再試合される場合、中断された時点から再開することができる。

12.A.10. タイムアウト：各チーム、通常の試合時間に 90 秒のタイムアウトを 2 回取得できる。

12.A.10.a 通常の試合時間中に取得されなかったタイムアウトは、延長戦では使用できない。

12.A.10.b チームは下記の状況においてタイムアウトを申請することができる：

- ・ ゴール後
- ・ アドバンテージフラッグエリア（AFA）外のフィールド上の任意の場所において、デッドボールが発生し、自チームボールでプレーが再開される時。
- ・ **守備側/攻撃側の AFA 外のフィールドの任意の場所にて、自チームがボール保持している時**

12.A.10.c タイムアウトを申請する際、コーチがスコアテーブルを通してタイムアウトを申請するか、ボールを保持している選手がフィールドにいる審判員にタイムアウトを直接申請することができる。
(7.A.2.b)

12.A.10.d 連続したタイムアウトは認められない。

i 次のタイムアウトを要求する前にプレーを再開しなければならない。

12.A.11. タイムアウトは審判員がタイムアウトのシグナルを示した時に始まる。60 秒経過後に、笛が鳴らされ、選手は 90 秒の笛が鳴る際にプレーを再開できるようフィールドに戻り準備する。

12.A.12. 審判員は出血、怪我や病気の疑い、又は必要に応じて選手の怪我の回復の為にタイムアウトを取得できる。フィールド選手には最大 2 分、ゴールキーパーには最大 5 分の回復時間が与えられる。

12.A.13. 負傷によるタイムアウトの後、試合はルール 13.A.8 にしたがって再開される。

12.A.14. 選手は、負傷によるタイムアウト後、プレー再開時にはフィールドに正しい数の選手を配置しなければならない。コーチおよびベンチスタッフは、コーチングを目的として負傷によるタイムアウト中にフィールドに入ってはならない。(20.A.15.a)

12.A.15. 延長戦の手順 - 勝敗を延長戦により確定させなければならない場合

12.A.15.a 通常の試合時間中終了時に得点が同点だった場合、サドンビクトリー方式で延長戦としてプレーが継続される

12.A.15.a.i 通常の試合時間終了後、延長線は 2 分間の休憩の後、再開される。

12.A.15.a.ii 試合時間終了後の 2 分間の休憩時間に、審判員は各チームのキャプテンをフィールド中央に呼び、守備するゴールを決めるため、審判員がコイントスをする。アウェイチームのキャプテンがコイントスを決められる。

12.A.15.a.iii 延長戦の各ピリオドは、全てセンタードローから始まる。

12.A.15.a.iv 延長戦では、最初のゴールが決まるまで 4 分間のストップクロックで試合が行われ、どちらかが得点を決めた時点で勝敗が決まる。

12.A.15.a.v 各チームは 4 分間のピリオド終了時に攻撃する方向を交代する。攻撃方向を変更する間のタイムアウトはない。

12.A.15.a.vi 延長戦では 8 分(4 分を 2 ピリオド)毎に 2 分間の休憩が入る

ルール 13 試合の開始および再開

A ルール

13.A.1. 試合は、下記状況においてセンターサークル内でのドロースタートから始まる：

13.A.1.a 各クォーターの試合開始時。

13.A.1.b 各延長戦の開始時。

13.A.1.c それぞれのゴールの後。

13.A.1.d 例外：センターライン上でフリーポジションまたはスローが与えられた場合を除く。(21.B.6 & 23.B.11.d)

13.A.2. 選手は、ゴールが決まってから 30 秒以内に試合再開のドロースタートを行う準備が完了しなければならない。

13.A.3. センターラインでのドロースタートの際、センターエリアには各チーム最大 3 名ずつの選手が入ることができる。審判員の「レディ」の声でリストラインラインの選手の出入りはできなくなる。ドロースタートを行わない選手は、プレー開始の笛が吹かれるまでセンターサークルに入ってはならない。

■ このルールが適用されるのは、ファールによって選手またはそのチームが明らかなアドバンテージを得た場合である。

■ センターエリアとは、両サイドのリストラインラインに囲まれたエリア

13.A.4. 各チームのゴールキーパーを含む他のすべての選手は、センターエリア外にいないなければならない。ボールがリストラインラインを越えるか、ポゼッションが得られて審判員によって「ポゼッション」のコールとシグナルがされるまで、リストラインラインを越えてはならない。ポゼッションのコールの前に、センターエリア外にいる選手は、体の一部がリストラインラインに触れるか、踏み越えない状態であれば、ボールをプレーするためにクロスを持ってライン上に手を伸ばしてもよい。

■ フリーポジションまたはスローで試合が開始または再開された場合、フリーポジション/スローから 4m 以内にいる選手は 4m 以上離れなければならない。

13.A.5. ドロースタート

13.A.5.a ドロースタートを行う選手は、センターラインに片足のつま先を付けて立つ。クロスは、両選手の腰よりも高い位置にて、センターラインに対して平行にして中央にセットする。

13.A.5.b クロスのポケットが開いた側を体に向けてもった際の右ウォール部分が下になるよう背中合わせにし、それぞれの選手のクロスがボールと守備側のゴールの間に位置するようセットする。

13.A.5.c ヘッドの面は 地面に対し垂直かつシャフトはセンターラインに対して平行でなければならない。

13.A.5.d ハンドルの下部を握る手(ボトムハンド)は、ハンドルの上部を握る手(トップハンド)より高く位置してはならない。

13.A.5.e トップハンドとボトムハンドを結んだ線が、地面との平行線に対して 30 度以上傾いてはならない。

- 13.A.5.f 選手のトップハンドは、ヘッドのフレームやポケットのいずれの部分も触れてはならない。
(19.A.1.a)
- 13.A.5.g ドローを行う際、審判員は、両選手のクロスのヘッド上部 2 分の 1 を重ね、ヘッドの最も幅が広い辺りにボールをセットする。
- 13.A.5.h クロスがセットされたら、審判員は「レディ」の声を掛けてからセンターサークルの外側に向けて下がる。「レディ」の声掛けから笛が鳴るまで、センター選手は動きを止めなければならない(頭部は動かしてもよい)。
- 13.A.5.i 笛と同時に、両選手はクロスを上げて互いに離さなければならない。
- 13.A.5.j ボールはドローを行った両選手の頭より高く飛ばなければならない。
- 13.A.6. 両チームの選手が不正なドローをした場合、不正なドローの理由が判別できない場合、または正しくセットされなかったためドローが失敗したと審判員が判断した場合は、再度ドローが行われる。
- 13.A.7. タイムアウト後に試合を再開する場合は、タイムアウトがコールされた時点でボールのある地点で
 - 13.A.7.a ファール後、怪我人の交代によるの再開の場合は、ファールをされた選手が再開する
(19.B.10,20.B.3)
 - 13.A.7.b ボールを保持していたチーム(デッドボール、アウトオブバウンズ、ボール保持中)のいずれの選手もプレーを再開できる
- 13.A.8. 事故、選手の負傷や体調不良、妨害行為、不注意で吹かれた笛、その他ボールに関連する/しない状況により試合を中断しなければならない場合、試合は下記 3 つの方法のいずれかで再開される：
 - 13.A.8.a ファールがあった場合は、ルールに従って審判員が決定した地点でフリーポジションを与える。アドバンテージフラッグエリア内でプレーを再開してはならない。
 - 13.A.8.b ファールがなかった場合には、プレーが停止されたときにボールを保持していた選手に、アドバンテージフラッグエリアの外側でボールが与えられる。相手側の選手はボール保持者から 1m 以上クロス、体、足が離れなければならない。
 - 13.A.8.c どちらのチームもボールを保持していない時にプレーが中断された場合、プレーが中断された時にボールがあった位置でスローが行われる。(ルール 16)

セルフスタート

- 13.A.9. フリーポジションを与えられた選手は、アドバンテージフラッグエリア外で、メジャーファールまたはマイナーファールの笛が吹かれた際、フリーポジションを与えられる選手は、両足が地面に着き静止した状態かつボールがクロスに入っていれば、ルール 13.A.9.h の場合を除き、再開の笛を待たずにプレーをプレーを続けることができる。ただし、何らかの事情により時計が止められていた場合は、この限りではない。
- 13.A.9.a ファールを犯した選手は、審判員によりフリーポジションを与えられた選手に対し、メジャーファールの場合は 4m 真後ろへ、マイナーファールの場合は 4m 横へ直ちに離れなければならない。4m 以内にいる他の選手は、4m 以上離れる。その他の選手は移動してもよい。

- 13.A.9.b フリーポジションを獲得した選手がセルフスタートを選択した場合、守備選手はセルフスタートの直後にプレーを再開することができる。

i ファールを犯した選手は、ボールキャリアがセルフスタートするまで、4m 離れて/後ろに移動し続けなければならない。ボールキャリアは、処置すべき選手を 4m 離すまでセルフスタートを待つ必要はなく、たとえ近くに誰かがいたとしても、セルフスタートするか否かを決めるのはボールキャリアである。

- 13.A.9.c セルフスタートのオプションは、ファールのあった地点で行われる。ただし、セルフスタートをしようとする選手からプレイングディスタンス(その場から動かずにボールを拾う事ができる範囲で、クロスと半歩分の大体 2m) の範囲内にボールがある場合は、その選手はボールを拾ってセルフスタートできる。

- 13.A.9.d プレイングディスタンスの範囲外にある場合、フリーポジションを与えられた選手とボールはファールの地点に戻りセルフスタートしなければならない。ファールの地点が特定できない場合は、審判員がフリーポジションの場所を指示する。

- 13.A.9.e サイドライン、もしくはアドバンテージフラッグエリア外のエンドラインからのアウトオブバウンズの際にもセルフスタートは適応される。その際、境界線から 2m 内側に入り、セルフスタートを行う。その他の選手はボール保持者から 1m 以上クロス、体、足が離れなければならない。

- 13.A.9.f アドバンテージフラッグエリア内、かつゴールラインの裏側のエリアでアウトオブバウンズになった場合は、最も近いドットからセルフスタートを行う。ゴールキーパーが自陣のゴールサークル内にいて、最も近い位置にいる場合は、自陣のゴールサークル内でボールを与えられる。

- 13.A.9.g フリーポジションのリセット後、選手はセルフスタートすることができる。フリーポジションを与えられた選手は、許可されていないセルフスタートをした場合、またはプレイングディスタンスを超えてセルフスタートを試みた場合でも、ペナルティを科せられない。

- 13.A.9.g.i プレーを再開するために、審判員はフリーポジションをリセットし、選手が正しい位置からセルフスタートできるようにするか、セルフスタートが許可されていなかった場合は笛でプレーを再開する。ただし、許可されていない状況で繰り返しセルフスタートを試みた場合、遅延行為のペナルティが科せられる。

- 13.A.9.h 以下の場合、セルフスタートは適用されない。

13.A.9.h.i 試合時間が止められている時

13.A.9.h.ii リストレイングラインファール

13.A.9.h.iii 不正なドロウ

13.A.9.h.iv アドバンテージフラッグの適用範囲内での全てのファール

B ペナルティ

- 13.B.1. **イリーガルドロー** : イリーガルドローが発生した場合、相手側選手はマイナーファールとなり、センターラインでフリーポジションを得る (19.B.1)

- 13.B.2. **アーリーエントリー** : ドローの笛の前にセンターサークルに入ってしまったら、マイナーファールとなる。笛

がなった時にボールがあった場所に一番近い相手チームの選手にマイナーファールのフリーポジションが与えられる

■ この行為により、選手やチームが明らかなアドバンテージを得た時にファールがコールされる。

13.B.3. **アーリーエントリー**：審判員が“ポゼッション”のコールをする前に、ミッドフィールドのエリアに選手が入ってしまったら、笛がなった時にボールがあった場所に一番近い相手チームの選手にマイナーファールのフリーポジションが与えられる

■ この行為により、選手やチームが明らかなアドバンテージを得た時にファールがコールされる。

13.B.4. **ディレイオブゲーム**：タイムアウト後に、チームが試合再開の準備ができていない場合、マイナーファールがコールされる。(19.A.18)

13.B.5. セルフスタートのフリーポジションを与えられた選手に対して、セルフスタートする前に守備側の選手が近づいた場合、ボールがあった場所でペナルティが与えられる。

13.B.6. ファールが繰り返された場合は、(19.B.7)に従って処分が行われる。

ルール 14 交代

A ルール

14.A.1. 各チームは、プレー中またはデッドボールの間、いつでも選手を無制限に交代させることができる。

14.A.2. ゴールが決まった後に交代する選手は、交代エリアおよび交代ゲートから直ちにフィールドに入ることができ、交代する選手がフィールドから出てくるのを待つ必要はない。

❗ 審判員はプレーを再開する前にフィールド上の選手を数えるべきである。

14.A.3. 交代する選手は、チームベンチエリアから交代待機エリアに入らなければならない。フィールドにいる選手が交代ゲートに近づいたら、交代待機エリアにいる選手は交代区域に入り、交代ゲートに近づいてもよい。フィールドにいる選手の両足がフィールドを出て交代区域に入り次第、交代する選手はフィールドに入ることができる。交代を待つ／終わった選手は、交代エリアにとどまってはならず、他の選手との衝突を避け、スコアラーのために視界を確保しなければならない。

14.A.4. 交代エリアに入ることができるのは、交代中の選手のみである。

14.A.5. 試合中、フィールド上にいるエキストラ選手、フィールド上にいる出場停止中の選手、フィールド上にいる不正な選手は、すべて不正な交代である。

14.A.6. 氏名および背番号が誤って記載されている選手、またはチームのスコアシートに記載されていない選手は、不正な選手であり、訂正された場合にのみ試合に出場することができる。そのチームはルール 14「交代」に従い罰せられる。

14.A.7. 負傷によるタイムアウトの間、医療スタッフおよび/またはコーチが選手を治療するためにフィールドに入った場合、その選手はフィールドから退出しなければならない。代わりの選手がプレーすることができる。

❗ 負傷した選手を治療するために医療関係者がフィールドに入る必要がある場合、フィールド上の審判員の合図があるまで待たなければならない。

14.A.8. いかなる選手も、傷口が開いたまま、または血液が付着した衣服や装具を着用して、フィールドにとどまることは許されない。

B ペナルティー

14.B.1. 不正な交代はマイナーファールであり、不正な交代の間にゴールが成立しない限り、フリーポジションはボールのある地点またはその付近の相手側選手に与えられる。

14.B.2. 攻撃側が不正な交代を行った場合、審判員は直ちにプレーを停止する。

14.B.2.a 不正な選手がゴール後次のドロウの前に攻撃側にいた場合、その得点は無効となる。不正な選手は退場させ、相手側選手にセンターライン上でフリーポジションを与える。

14.B.3. もし守備側が不正な交代を行い、ボールが

14.B.3.a ミッドフィールドエリアにあれば、審判員は直ちにプレーを停止する。

14.B.3.b フィールドの自陣の守備側において、シュートの失敗またはポゼッションの変更があったタイミングで、審判員はプレーを停止する。不正な選手を退場させ、相手側選手にボールのある

地点から最短距離でアドバンテージフラッグエリア(AFA)外に出た場所でフリーポジションを与える。攻撃側がシュートし得点した場合は、センターラインでドロでプレーを再開する。

- 14.B.4. 両チームの選手が不正に交代した場合は、ボールのある地点またはその付近でスローを行い、プレーを再開する。(ルール 16)
- 14.B.5. フィールド上の選手が不正な交代であり、かつオフサイドである場合は、その選手を退場させ、オフサイドファールの処置を行いプレーを再開する。(ルール 18)

ルール 15 アウトオブバウンズ

A ルール

15.A.1. ボールがアウトオブバウンズとなる前に最後にボールに触れた選手／チームがボールポゼッションを失う。ただし、それがシュートであった場合、またはゴールポストもしくはゴールキーパーから跳ね返ったシュートであった場合は除く。

15.A.2. ルーズボールが境界線または境界線外の地面に触れた場合、そのボールはアウトオブバウンズとなる。

15.A.3. **選手がボールを持っているときに、境界線を踏んだり、境界線を越えたり、体またはクロスの一部が接地した場合、ボールはアウトオブバウンズとなり、その選手はポゼッションを失う。**

■ ボールを持った選手は、足が境界線に触れなければ、境界線の外側でクロスを持つことができる。足が境界線の内側にある相手側選手が、選手のクロスを正当にチェックし、ボールが境界線の外に落ちた場合、プレー再開時のポゼッションは相手側選手に与えられる。

15.A.4. **選手は、アウトオブバウンズ、すなわち足が境界線またはエンドラインの上または外にあるときは、試合に積極的に参加してはならない。**

■ 境界線に向かってボールを追う選手は、ボールが境界線の外に出ようとするのをクロスで止めた結果、ボールは静止し、選手が境界線の外に出た場合、その選手はフィールドに完全に戻った状態で、ボールを拾い上げなければならない。

15.A.5. 試合中、選手は境界線の外に出て、より有利な状態で再び入ることはできない。

■ 相手側が境界線上でセットしたピックを避けるために、選手がピックの周囲を走りフィールドの外に出て、ボールキャリアのクロスからボールをチェックできる位置でフィールドに戻ることはファール。再開はボールキャリアが境界線の内側 2m でボールポゼッションを維持する。

B プレーの再開

15.B.1. ボールがアウトオブバウンズとなったら、ボールポゼッションの変更が行われる。ファールではない。

■ ボールがアウトオブバウンズとなった際にファールが発生した場合は、ファール適用された状態でプレーを再開する。

■ 攻撃エリア/守備エリアにおいてボールがアウトオブバウンズとなり、ボールに最も近い選手がミッドフィールドエリアにいる場合、リストレインラインバイオレーションを避けるためボールはミッドフィールドエリアにいる選手に与えられる。

15.B.2. ボールがアウトオブバウンズ（AFA）以外に出た場合：

15.B.2.a ボールに最も近い相手側は、ボールを自分のクロスに入れ、ボールが境界を越えた地点から 2m 内側に立ち、セルフスタートすることができる(13.A.9)。もしゴールキーパーがゴールサークルの内側にいて、ボールが境界を越えたときにボールに最も近い選手であった場合には、ゴールサークルの内側でボールが与えられ、プレーを再開する。

15.B.2.b 相手選手は、ボール保持者から 1m 以上（クロス、体、足）離れなければならない。

15.B.3. ゴール上のシュートまたは跳ね返ったシュートがアウトオブバウンズとなった場合：

15.B.3.a ボールが境界線を越えた地点に最も近い選手にボールが与えられ、ボールが場外へ出た地点の境界線の 2m 内側でセルフスタートすることができる。

15.B.3.b AFA 内の GLE より下であれば、最も近いドットでセルフスタートすることができる (13.A.9.f)。ゴールキーパーが最も近い選手である場合には、ゴールサークル内でボールを与える。

15.B.3.b.i ディフレクテッドシュートとは、ゴールポストや選手の体、クロスに当たった後、直接アウトオブバウンズに出るシュートのことである。

■ ディフレクションは、選手がクロスや体でボールに触れただけで、明確なアドバンテージやボールコントロールを得ていない場合に発生する。

15.B.3.b.ii シュートまたはディフレクティッドシュートが審判員の体に当たってアウトオブバウンズとなった場合、プレーを再開するためにスロー行われる（ルール 16）。ボールが審判員の腕または体に当たって／跳ね返って境界線内にとどまった場合、プレーは続行される。

■ シュートがゴールポストではね返され、攻撃エリアから境界線外に出たとき、ミッドフィールドエリアにいる選手が最も近くにいた場合、プレーを再開するためには、ミッドフィールドエリアにいる選手にボールポゼッションが与えられる。選手ではなくボールを動かす。

15.B.3.c ボールがアウトオブバウンズとなったとき、2 人の選手のボールからの距離が等しい場合、または、どちらのチームがボールがアウトオブバウンズとなったかを判断できない場合、スローが行われ、プレーが再開される。スローは AFA 外で、少なくとも境界線の 2m 内側に設定される。

■ シュートまたは跳ね返されたシュートは、(i)ボールがアウトオブバウンズに出るか、(ii)ボールがフィールド上で静止するか、(iii)選手がボールを所有するまで「シュートのまま」である。

15.B.4. ボールがドロウで飛ばされたボールがどの選手にも触れることなく場外に出た場合、リストレイニングラインから 4m 以上、ゴールライン中心から 15m 以上離れた位置でスローを行う。(16.A.3.h)

ルール 16 スロー

16.A.1. スローを行うには、両チーム 1 人ずつの選手が、足とクロスを少なくとも 1m 離して立つ。それぞれ、守備するゴールに近い位置に立ち、フィールドの内側を向いて立つ。

■ 審判員は選手から 6～8m 離れて立ち、選手がボールをキャッチまたはプレーできるように、短く高い弧を描いてボールを選手に向かって投げ上げると同時に笛を吹く。

16.A.2. **スローは、プレーが停止した際に何らかの問題が発生した地点、またはボールがあった地点、あるいはその付近で行われる。ただし、すべてのスローはアドバンテージフラッグエリア（AFA）の外側、境界線から 2m 以上内側、およびリストレインラインから 4m 以上離れた場所で行われなければならない。他の選手はスローを行う両選手から 4m 以上離れた位置に立つ。**

■ スローが正しく行われなかったり、両選手がボールに触れなかった場合には、再度スローが行われる。

16.A.3. スローが行われるのは次の場合である：

16.A.3.a ボールが選手以外に当たってゴールに入った場合、マーキングエリア（MA）がゴールライン延長線と交わる位置で、最も近い両チームの選手にスローが与えられる。（16.11.A.4 および 15.B.3.b.ii）

16.A.3.b シュートが得点とならず、ボールが場外に出たときに、両チームの選手がボールから等距離にいた場合。（15.B.3.c）

16.A.3.c シュートが外れて審判員の体に当たり場外に出た場合（15.B.3.b.ii）

16.A.3.d どちらのチームが最後にボールに触って場外に出たか判断できない場合（15.B.3.c）

16.A.3.e どちらのチームもボールを保持していない状況で、ボールと関係ない場所でファールではない何らかの問題によって試合が止められた場合（13.A.8）

16.A.3.f フィールド選手または審判員の服にボールがひっかかった場合。

■ ボールがゴールキーパーの衣服、装具またはゴールネットにかかった場合は、ルール 17.A.10 参照のこと。

16.A.3.g 両チームの選手が、同時に同等のファールを犯した場合。

- ・ **例外 1**：ルール 13.A.6 に従ってドローを行う際、両センタープレイヤーともが不正なドローを行った場合。
- ・ **例外 2**：スコアリングプレー中、審判員がアドバンテージフラッグを上げているときに、攻撃側の選手がメジャー/マイナーファールを犯した場合、スローは AFA がゴールライン延長線（GLE）と交わる位置で行われる。（ルール 16）

16.A.3.h ドローからボールが直接アウトオブバウンズになった場合、ボールが出た場所から境界線の内側 2m、リストレインラインから 4m 離れた場所でスローが与えられる。（15.B.4）

ルール 17 ゴールサークルルールとペナルティ

A ルール

ゴールサークル内でのポゼッション

17.A.1. ゴールサークル内でゴールキーパーまたはディフェンダーが、片足または両足をゴールサークル内に接地させている場合、下記を満たせば**ポゼッション**しているとみなされる。

- ・ ボールがクロスの中にある
- ・ ボールがゴールサークル内にあり、かつポケットの中にあるか、ゴールキーパーのクロスにトラップ（ゴールキーパーのクロスでセーブする際にクロスの中でボールがバウンドしているなど、クロスに完全に収まっていないが、すぐに次のプレーに移れる状態でボールを支配できている）されている

❗ 足または体の一部がゴールサークルに触れている限り、ゴールサークル内に接地しているとみなされる。

❗ ゴールサークル内のディフェンダーはカバーリングはできない。上記の状況でクロスでカバーリングできるのはゴールキーパーのみ。

17.A.2. ゴールサークル内でポゼッションしているときは、ゴールキーパーのクロスをチェックすることは**できない**。

17.A.3. ゴールサークル内でボールをポゼッションしているのがディフェンダーである場合はクロスをチェックすることができる。

❗ ゴールキーパーまたはディフェンダーが、ゴールサークル外のボールをプレーしようとしながら（例：拾い上げ、すくい上げ、はじき、またはかき寄せ）、ゴールサークル内に接地している場合、ボールをポゼッションしているとはみなされない。

17.A.4. ゴールサークル内では、ゴールキーパーまたはディフェンダーはゴールサークル内でポゼッションを得てから 5 秒以内にボールをゴールサークルの外に出さなければならない。

❗ 審判員は、ボールがゴールサークル内にある間、秒数を数えるために目に見える形で手を横に振って、5 秒を声に出してカウントする。

17.A.5. ゴールキーパーまたはディフェンダーがゴールサークル外でボールをポゼッションした場合、ゴールサークルにボールを戻し入れることはできるが、ポゼッションを得てから 5 秒以内にボールをゴールサークル外に出さなければならない。

17.A.5.a ゴールキーパーまたはディフェンダーは、クロスでボールを保持したままゴールサークルに再び入ることはできない。

❗ ボールをゴールサークルに投げたり転がしたりしてから、ゴールサークルに入ることができる。

17.A.6. 守備チームが一度ボールをゴールサークル外に出した場合、ボールがプレーされる（ボールがクロスから離れ、他の選手が触れる状態になる）まで、ボールをゴールサークルに戻してはならない。

17.A.7. ゴールキーパーまたはディフェンダーがクロスでボールを持ったままゴールサークル外に出した場合、ボールがプレーされる（ボールがクロスから離れ、他の選手が触れる状態になる）までボールをゴールサークルに戻すことはできない。

17.A.8. ゴールキーパーまたはディフェンダーは、ゴールサークル内に接地している場合、ボールをゴールサークル内にかき寄せることができる。(19. A. 11)

17.A.8.a ボールをゴールサークルに戻す/かき寄せる過程で、ゴールキーパー/ディフェンダーは、相手選手がボールをプレーするのを妨げない限り、クロスでボールを覆うことができる。(妨げることは、19. A. 11 のカバーリング)

17.A.9. ゴールキーパーは、手、体、および/またはクロスでボールを止めることができる。ボールをキャッチした場合、試合を続行するにはボールをクロスに入れなければならない。

17.A.10. ゴールキーパーは、ゴールネット、衣服、または装具に挟まったボールを取りのぞき、クロスに入れて試合を続けなければならない。

■ 審判員は、ゴールキーパーが衣服、装備、またはゴールネットからボールを外すのを手伝うために、タイムアウトを取得できる。ゴールキーパーはボールを保持した状態でプレーを再開し、審判員の笛で 5 秒のカウントを開始する。

17.A.11. ゴールサークルの完全に外にいる場合、ゴールキーパーまたはディフェンダーは、ボールを保持している状態では、ゴールサークルラインを踏んだり、ゴールサークルに戻ったりすることはできない。

■ ゴールキーパーがグラウンドボールを拾うためにゴールサークル外に出て、ゴールサークル内に戻った場合。イリーガル：ゴールキーパーはゴールサークル外に接地していた。プレーを再開するには、ゴールキーパーはファールのあった場所（ゴールサークル内）にとどまり、攻撃選手は MA が GLE と交わる地点でフリーポジションを与えられる。

アタック

17.A.12. 攻撃側の選手は、いかなる場合においても、ゴールサークル内に入ったり、ゴールサークル内またはゴールサークルライン上に足を踏み入れたりしてはならない。

17.A.13. 攻撃側の選手はゴールサークル内でボールを「プレー」できるが、以下の行為をしてはならない。

17.A.13.a シュート時にゴールサークルラインを踏んだり、越えたりすること

17.A.13.b ボール全体がゴールラインを完全に越えるまで、ゴールサークルを踏んだり、ゴールサークル内に入ったりすること。(11. A. 2)

17.A.13.c ゴールキーパーまたはディフェンダーと接触すること。

17.A.13.d ディフェンダーをゴールキーパーに接触させること。

17.A.13.e いかなる形でも、ゴールキーパーまたはそのクロスを妨害すること。(11.A.7)

■ 「プレー」とは、シュート、シュート、ボールを取り上げる、弾く、パス、およびその他の合法的なアクションを含む。つまりシュートは、バウンド、グラウンディング、空中、キャッチ、インターセプトのいずれであっても、ゴールサークル内で開始することができる。

■ シューターはボールがゴールラインを完全に越えてからゴールサークルに入ることができる。

■ シュート前にゴールサークル付近で正当に合法に立っている守備側の選手は、攻撃側のシューターまたは他の選手が起こした違法な接触に対して罰せられることはない。

ディフェンス

17.A.14. 守備チームがボールを保持している場合、ゴールサークル内に**残ることができる**のは 1 人の選手だけである。

■ これは通常ゴールキーパーだが、ゴールキーパーがサークル外にいる場合はディフェンダーでもよい。

17.A.15. 攻撃側が保持しているときは、ゴールキーパーだけがシュートをセーブするためにゴールサークルにと**どまる**ことができる。

17.A.16. ゴールキーパーのみが、ゴールへのシュートをセーブする目的でゴールサークル内にいることが許可される。ディフェンダーがゴールサークル内にいる場合、相手チームがボールを保持した時点で、直ちにゴールサークルから離れなければならない。ゴールサークル内でゴールへのシュートをセーブしようとすることは、メジャーファールとなる。(20.A.13)

17.A.17. 自陣の守備エリアにいる選手はゴールサークル内を通過することができる。

17.A.17.a 攻撃チームが相手の守備エリアでボールを保持している場合、守備側の選手は守備中にゴールサークルのどの部分も走り抜けることができる。クロス 1 本分の距離内でボール保持者をマークしている守備側の選手のみが、守備中にゴールサークル内に留まることができる。

■ ゴールサークルを走り抜けるディフェンダーは、シューティングスペースと 3 秒のルールに従わなければならない。(20.a.21 & 20.a.22)

■ 例えば、ディフェンダーは、以下のような場合にゴールサークル内を走り抜けることができる。

- ・ ボールを持っている攻撃側の選手をマークしている場合、または
- ・ ボールを持っていない攻撃側の選手をマークしている場合、または
- ・ どの攻撃側の選手もマークしていない場合、または
- ・ ゴールサークル内でボールをプレーする場合

■ ボールを持っていない攻撃側の選手がゴールサークルの端またはゴールサークルラインより下で立ち止まっている場合、ゴールサークル内でマークしているディフェンダーは外に出なければならない。攻撃側の選手が再び動き始めた場合、ディフェンダーはゴールサークルに戻り、攻撃側の選手についていくために通り抜けることができる。

ゴールキーパー

17.A.18. ゴールキーパーが完全にゴールサークルの外に出た場合、ゴールキーパーの特権をすべて失う。

■ ゴールサークル内から、ゴールキーパーは片足または両足をゴールサークルラインに踏み込んだり、立ったりすることができる。足がゴールサークルラインの一部に触れている限り、ゴールサークル内にいるとみなされる。

■ ゴールキーパーが完全にゴールサークル外に出た場合、シューティングスペース、体を使ったシュートのセーブ(20.A.13)、ボディボール(19.A.10)、カバリング(19.A.11)の対象となる。

17.A.19. ゴールキーパーは以下のことを行ってはならない。

17.A.19.a 自分のクロス/装具を他の選手に投げること。

17.A.19.b ボールを保持している場合、ゴールサークルラインを踏んだり、ゴールサークルに戻ったりするこ

と。(17.A.11)

■ ゴールキーパーがグラウンドボールを拾うためにゴールサークルラインにまたがり、ゴールサークル内に戻った場合。合法。
ゴールキーパーはゴールサークル内に接地。

17.A.20. ゴールサークル内にいる場合、ゴールネットまたはクロスに挟まったボールを取りのぞき、クロスに入れて試合を続行しなければならない。(17.A.10)

B ペナルティ

17.B.1. **攻撃選手**がゴールサークルファールを犯した場合：

17.B.1.a ゴールキーパーはゴールサークル内でフリーポジションを得る。

17.B.1.b ファールをした選手はゴールサークル横に 1m 移動する。

17.B.1.c 他のすべての選手は、ゴールサークルから少なくとも 1m 離れる。

■ 攻撃選手がゴールサークルファールを犯したときにゴールキーパーが完全にゴールサークルの外にいた場合には、ゴールサークルに最も近い守備選手（ゴールキーパーであってもなくてもよい）がゴールサークル内でフリーポジションを得る。

17.B.2. **守備選手**がゴールサークルファールを犯した場合：

17.B.2.a 攻撃選手は、マーキングエリア（MA）と GLE が交わる地点でフリーポジションを得る。

17.B.2.b ファールを犯した選手は、フリーポジションを得る選手の 4m 後ろに移動する。

17.B.2.c 他のすべての選手は、フリーポジションが与えられた選手から 4m 以上離れる。

■ 上記のように、適切な装具をつけていないディフェンダーはゴールサークル内にいることができるが、シュートをセーブするためにゴールサークル内に入ることは許可されない。これはゴールサークル内でのメジャーファールであり、メジャーファールとして処理される。ルール 20 参照。

17.B.3. **ゴールキーパー**がゴールサークルファールを犯した場合：

17.B.3.a 攻撃選手は、MA が GLE と交わる地点でフリーポジションを得る。

17.B.3.b ゴールキーパーはゴールサークル内に留まるか、戻る。

17.B.3.c どの守備選手も 4m 後ろに配置されない。

17.B.3.d 他のすべての選手は、フリーポジションが与えられた選手から 4m 離れる。

17.B.4. ゴールサークルでのプレー中にメジャーファールでカードが出された場合、試合はルール 20 に従って再開される。スコアリングプレー中、試合はルール 21 に従って再開される。

ルール 18 リストレイニングラインルールとペナルティ

A ルール

18.A.1. リストレイニングラインルールは試合中終始適用される。

18.A.2. 以下の行為は禁止されている。

18.A.2.a 攻撃側の選手が、攻撃側のリストレイニングエリアに 6 人を越えて入る。

18.A.2.b 守備側の選手が、守備側のリストレイニングエリアに 7 人を越えて入る。7 人のうち 1 人は必ずしもゴールキーパーでなくてもよい。

❗ 選手の足や体の一部がリストレイニングラインを踏み越していない限り、クロスやその他の体の一部が線上を越えることは問題とされない。

❗ 選手の足が一部分でもリストレイニングラインに触れたり踏み越した場合はリストレイニングエリアに入ったとみなされ、ファールとなる。

❗ ゴールキーパーがボールをクリアしたとき、審判員はパスを受ける選手がオフサイドになっていないか確認する。

B ペナルティ

18.B.1. リストレイニングラインの侵害（オフサイド）はマイナーファールである。プレーの再開については 13.A.9.h を参照。

❗ オフサイドは、審判員が腕をまっすぐ頭の上に上げて示す。偶発的なオフサイドのファールがあり、他のファールがなかった場合は、ルール 13.A.8 に従って試合を再開する。

❗ 攻撃側と守備側のオフサイドのペナルティは同じである。オフサイドの笛が吹かれた際にボールがあった位置でフリーポジションが与えられる

18.B.2. オフサイドのファールが起こったとき、ボールが**ゴールサークル内もしくはアドバンテージフラッグエリア内**にある場合：

- ・ リストレイニングラインに最も近いオフサイドを犯したチームの選手は、ミッドフィールドエリア（図 9）に戻される。
- ・ フリーポジションはマーキングエリアの**中央のハッシュマーク**に設定され、ハッシュマークに最も近い相手選手にフリーポジションが与えられる。
- ・ フリーポジションが与えられる選手から半径 4m 以内にいる一番近いオフサイドを犯したチームの選手は、フリーポジションを与えられた選手の真横に 4m 離れた位置に移動する。
- ・ 他のすべての選手は、フリーポジションから 4m 以上離れていなければならない。

❗ 中央のハッシュマークは、フリーポジションを設定するための視覚的補助である。これはマイナーファールなので、MA マーキングエリアはクリアされない。

18.B.3. オフサイドのファールが起ったとき、ボールがアドバンテージフラッグエリアの**外側**にあった場合：

- ・ オフサイドを犯した選手またはリストレインラインに最も近いオフサイドを犯したチームの選手はリストレインライン外に戻される。
- ・ オフサイドが起きた時に**ボールがあった位置**に最も近い相手選手にフリーポジションが与えられる（少なくとも境界線から 2m 以上離れた位置）。
- ・ フリーポジションが与えられる選手から 4m 以内にいる一番近いオフサイドを犯したチームの選手は、フリーポジションを与えられた選手の真横に 4m 離れる。
- ・ 他のすべての選手は、フリーポジションを与えられた選手から 4m 以上離れる。

18.B.4. 攻撃側がアドバンテージフラッグエリア内でスコアリングプレーをしているときに、**守備選手がオフサイドであった場合**（ルール 21）、笛は保留される。

i これは、スコアリングプレーに不利となる守備チームによるリストレインラインのブレイクダウンファールを防ぐためである。

18.B.5. **守備選手がオフサイドでアドバンテージフラッグが挙げられていない場合** / スコアリングプレーでプレーが以下のように終了する場合：

18.B.5.a 攻撃選手によるメジャーファールがあった場合は、そのメジャーファールに対してペナルティを与え、プレーを再開する。

18.B.5.b 攻撃選手によるマイナーファールがあった場合、スローは MA がゴールライン延長線と交わる地点よりも近い場所からは行われない。

18.B.6. 守備チームがオフサイドを犯した状態で、アドバンテージフラッグが挙がっており、かつスコアリングプレーが攻撃選手によるメジャーファールまたはマイナーファールで終了した場合、それぞれのファールはオフセットされる。

18.B.6.a プレーを再開するには、オフサイドの選手はリストレインライン外に戻り、スローは MA がゴールライン延長線と交わる地点よりも近い場所からは行われない。（16. A. 3. g & 21. B. 5

18.B.7. **攻撃選手がオフサイドの場合**、即座に笛を吹いてプレーを止める。

18.B.8. ゴールが決められた際に攻撃チームがオフサイドであった場合、そのゴールはカウントされず（11. A. 14）、フリーポジションはルール 18. B. 2 に記載されている通りに設定される。

18.B.9. 両チームが同時にオフサイドを犯した場合、オフサイドを犯した選手はリストレインライン外に戻され、プレーが中断された際にボールがあった位置で最も近い両チームの選手によりスローが行われる。

ルール 19 マイナーファールとペナルティ

A ルール

ドロー

19.A.1. **不正なドロー**：選手は不正なドローをしてはならない。(13. A. 5)

19.A.1.a ドローの間、および試合中の他のすべての時間において、選手のトップハンドはクロスのスロート、サイドウォール、ポケットのどの部分にも触れてはならない。

❖ ワンピースクロスの場合、スロートはヘッドがシャフトから広がり始めるところから始まる。

19.A.2. **アーリーエントリー**：ドローの間、ゴールキーパーは自チームの守備エリアにとどまらなければならない。それ以外の時間は、ゴールキーパーは自チームの守備エリアまたはミッドフィールドエリアにいないなければならない。(図 9)

19.A.3. **アーリーエントリー**：ドローの間、選手は以下の線を踏んだり乗り越えたりしてはならない。

19.A.3.a プレー開始の笛が吹かれる前のセンターサークルライン (13. A. 3)

19.A.3.b ポゼッションがコールされる前のリストレイニングライン (13. A. 4)

❖ アーリーエントリーが適用されるのは、ファールによって選手またはそのチームが明らかなアドバンテージを得た場合である。

ゴールキーパー

19.A.4. **ゴールキーパーの得点**：ゴールキーパーは、シュートまたはその他の方法でボールを相手ゴールに入れることはできない。

違法な装具

19.A.5. 選手は、その装具が正規のものでない限り、試合に参加しては**ならない**。

19.A.6. 不正なジュエリー類やマウスガードの欠如、ユニフォームが不正である場合、選手は試合に参加しては**ならない**。(ルール 6)

19.A.7. 選手は、正規のクロスを保持していない限り、試合に参加しては**ならない**。

❖ クロスを交換する選手は、交換のために交代ゲートからフィールドを出なければならない。

19.A.8. チームは、一度、クロスチェックを受け、合法と判断された相手側のクロスに対して 2 度目のクロスチェック要求してはならない。[違法なクロスチェックの要求]

❖ フィールド上にいる選手は誰でも、審判員に、AFA 外でデッドボールのタイミングで相手側クロスチェックを要求することができる。

❖ クロスチェックを要求する選手は、クロスをチェックする相手選手の番号を審判員に伝えなければならない。

19.A.9. 審判員がクロスチェックの要請をした後、選手はクロスのみを調節しては**ならない**。(11.A.11)。

❖ 審判員がクロスチェックの要請をした後、選手が紐を調節した場合、クロスは不正と判定され、残りのクォーターの間スコアラーテーブルに置かれる。選手は、試合中いつでもクロスのみを調節することができる。

プレー中

19.A.10. **ボディボール**：選手は、故意にボールの方向を妨げたり、加速したり、変えたりするために体のいかなる部分も使ってはならない。

19.A.11. **カバリング**：選手は、相手選手の正当なプレーの妨げとなる場合には、クロスまたは体のいかなる部分でもグラウンドボールをカバーしては**ならない**。

❖ チームメイト選手は、自分のクロスを相手のクロスとボールの間に素早く置き、ボールを空いたスペースや味方にプッシュまたはフリックすることができる。

19.A.12. **エンプティクロスチェック**：選手は、相手がボールを持とうとしている間、相手のエンプティクロスをチェックしては**ならない**。このルールは、相手がグラウンドボールをしようとしているとき、またはパスを受けているときに適用される。

❖ クロスがチェックされる前に、選手がボールを所有またはコントロールしている必要はない。選手のクロスがボールと接触しているとき、相手はそのクロスをチェックすることができる。チェックは、ボールが相手選手に接触するのと同時に行われれば正当である。

19.A.13. **ハンドボール**：ゴールサークル内のゴールキーパーでない限り、選手はボールに手や指で触れたり、体を使ったりしてボールをクロスに収めてはならない。(17.A.9)

19.A.14. **ヘルドクロス**：チェックの間、選手は相手のクロスを短時間、チェックしたクロスに戻さずに、抑えつけたまま保持しては**ならない**。

❖ これはホールド（メジャーファール-ルール 20.A.9）とは異なる。

19.A.15. **不正な交代**：選手は不正な交代をしては**ならない**。(ルール 14)

19.A.16. **オフサイド**選手はリストラインルールに違反しては**ならない**。(ルール 18)

19.A.17. **スロークロス**：いかなる状況においても、選手は自分のクロスを投げては**ならない**。

試合遅延

19.A.18. 選手は故意に試合を遅らせては**ならない**。

19.A.19. セルフスタートが許可されていない場合、選手は笛が鳴る前に動いては**ならない**。また、ドロー中またはスロー中、笛が鳴る前、フェイントをかけたり、相手を動かすような動作をしては**ならない**。カードが提示される場合もある。

19.A.20. 選手は、ゴールが決まった後、クォータータイム後、またはチームのタイムアウト後、30 秒で試合をス

タートしなければならない。(13.A.2)

- 19.A.21. プレーの開始とリスタート（ルール 13）のため、選手は審判員の指示によって準備しなければならない。

B ペナルティ

■ ヘルドホイッスル：審判員は、ファールされている側に不利益を与えることになる場合には、裁量により、ファールに対して笛を吹かない方法で対応することができる。選手がファールを受けたが、ボールポゼッションを維持しており、プレーを継続させた方が有利な場合、審判員は、ファールを起きていることを示すためにその選手が攻撃している方向に腕をまっすぐ伸ばす。

ドロ

- 19.B.1. **イリーガルドロ**：イリーガルドロのファールがコールされた時、相手選手はセンターライン上でフリーポジションを与えられる(13.B.1)。フリーポジションが与えられる選手から 4m 以内にいる選手は 4m 以上離れなければならない。

- 19.B.2. **アーリーエントリー**：ドロ中にアーリーエントリーのファールが発生した場合、ボールの地点に最も近い選手に、マイナーファールによるフリーポジションが与えられる(13.B.2 & 13.B.3)。

- 19.B.2.a もし、ゴールキーパーがドロの際に守備エリア外にいたとしてファールを受けた場合、ゴールキーパーは守備エリアに戻らなければならない、センターライン上で相手チームにフリーポジションを与えられる。フリーポジションが与えられる選手から 4m 以内にいる選手は 4m 以上離れなければならない。(図 9)

■ このルールは、ゴールキーパーまたはそのチームが、その不正な位置のために明らかなアドバンテージを得た場合に適用される。

ゴールキーパーによるマイナーファール

- 19.B.3. **ドロ**中にゴールキーパーがアーリーエントリーのファールを犯した場合、ボールのある地点でフリーポジションとなりプレーを再開する(13.B.3)。
- 19.B.4. ゴールキーパーが自陣の攻撃エリアに侵入してファールとなった場合、攻撃エリアに侵入した位置のリストレライン上で最も近い相手選手にフリーポジションが与えられる。ゴールキーパーはミッドフィールドエリアに戻り、フリーポジションが与えられる選手の横 4m に移動しなければならない。
- 19.B.5. **ゴールキーパーがゴールサークル内でグラウンディングしている状態で、マイナーファールを犯した場合、ゴールサークル内でフリーポジションをとる。他のディフェンダーが 4m 横に移動する必要はない。**
- 19.B.6. ゴールキーパーが**完全にゴールサークルの外（両足）**にいてマイナーファールを犯した場合は、フィールド選手と同じ処置となる。フリーポジションを取る選手の横 4m 移動しなければならない。(17.A.18)

その他

19.B.7. 繰り返し行われるディレイオブゲームおよび、執拗な、繰り返しのマイナーファールは、メジャーファールとして罰せられ、カードが出されることがある。

19.B.8. マーキングエリア (MA)外で発生した**すべてのマイナーファールについて** ;

19.B.8.a ファールが起きた地点で、フリーポジションを与える。アドバンテージフラッグエリア(AFA)の外側かつ境界線から 2m 以上内側に入った場所であること。

■ ゴールライン延長線より下でのマイナーファール後の再開は、ルール 1.D.1 に記載されたドットとする。

19.B.8.b ファールをした選手は、ファール時の相対関係を保ちながら相手選手の 4m 横に移動する。

■ 完全にゴールサークルの外で（両足で）マイナーファールをしたゴールキーパーにも適用される。

19.B.8.c 他の全ての選手は、フリーポジションが与えられた地点から 4m 以上離れる。

19.B.9. MA 内で発生した**すべてのマイナーファール**（アドバンテージフラッグなし/スコアリングプレーではない） :

19.B.9.a ファールをされた選手は、ファールがあった場所から最も近い MA 線上で、フリーポジションが与えられる。

19.B.9.b ファールをした選手は、ファールをした時の相対関係を保ち、相手選手の 4m 横に移動する。

■ 完全にゴールサークルの外で（両足で）マイナーファールをしたゴールキーパーにも適用される。

19.B.9.c 他のすべての選手は、フリーポジションが与えられた地点から 4m 以上離れる。MA はクリアにされない。

例外 : ゴールキーパーがゴールサークル内にいるときにファールを受けた場合、ゴールキーパーはゴールサークル内にとどまり、ファールをした選手はルール 19.B.9.b に従って位置し、その他の選手はルール 19.B.9.c に従って 4m 離れる。

■ 攻撃選手がシュートする機会があるかもしれない時に、ディフェンダーがマイナーファールを犯しても審判員は笛を吹かないことが奨励される。

19.B.10. **アドバンテージフラッグが挙げられている間にアタックがマイナーファールを犯した場合**、プレーを再開するためにスローが行われる。(ルール 21)

ルール 20 メジャーファールのルールとペナルティ

A ルール

20.A.1. **アクロスザボディ**: 選手は、接触の有無にかかわらず、自分の足が相手の後方にあるとき、または相手と横並びのときに、相手のクロスをチェックするために相手選手のボディーを横切って手を伸ばしてはならない。

■ 守備選手が攻撃選手の体の周囲に手を伸ばそうとするためには、守備選手の足は攻撃選手の前にいなければならない。このルールは守備選手が攻撃選手のクロスを後方から正当にチェックすることを禁止するものではない。

■ (i) 攻撃選手が相手の体/正当に保持されたクロスに自分のクロスや体を入れたり押し込んだりするときや、(ii) 正当な守備選手のダブルチームを不当に強引に通り返けるときはラフ/デンジャラスチェックにはならない。

■ アンバランスな体勢、静止した足、クロスの滑り等によって、無謀で危険なクロスの振りを引き起こす可能性がある。チェックの合法性を判断するために、審判員は力の強弱、バックスイングとフォロースルーの範囲と方向を確認しなければならない。音の大きなチェックは必ずしも違法なチェックとは限らない。

20.A.2. **ブロック**: 相手に止まったり方向を変えたりするための空間や時間を与えずに守備選手が相手選手の進路に進入すること。

■ 選手がボールを受け取ろうとして走っているとき、その選手の「ブラインドサイド(視覚の死角)」にいる選手は、走っている選手が方向転換するのに十分な時間やスペースを与えなければならない。

20.A.3. **チャージ**: 正当なディフェンスの位置を占めた守備選手を、自分の体やクロスを使って妨害し、ボディコンタクトをすること。攻撃選手は、正当なディフェンスポジションを取り/維持している守備選手に対して肩入れ、手で押すなどではなく、守備選手を回避するよう動かなければならない。

20.A.4. **頭部へのチェック**(カード必須): 選手は、クロスで相手の頭部を叩いてはならない。

20.A.5. **デンジャラスフォロースルー**(カード必須): 選手は、いかなる時も、危険な、またはコントロールできていない状態でフォロースルーをしてはならない。

■ もし守備選手がシュートの前にすでに正当なディフェンスの位置にいて、ボールを持った選手が危険な、あるいはコントロールされていない方法でクロスをフォロースルーすれば、これはデンジャラスフォロースルーである。もしディフェンダーがボールがリリースされた後のクロス/フォロースルーの軌跡に入ってきた場合は、デンジャラスフォロースルーではない。

20.A.6. **デンジャラスプレー**: 選手は、力任せに、危険な、威嚇的な、または自分や相手の安全を無視するような方法で、クロスや体を使用してはならない。これは、ボールを保持しているか否かにかかわらず、すべての選手に適用される。

20.A.6.a 選手は、ボールがアウトオブバウンズになるように、故意にボールを相手の足や体に押し当てたり、はじいたり、バツェングしてはならない。

20.A.7. **デンジャラスプロペリング**(カード必須): 選手は、危険な方法または制御できない方法で、クロスでボールを進めてはならない。フィールド選手の位置を無視したパスやシュートは危険である。

20.A.8. **デンジャラスシュート**: 選手は、危険、またはコントロールされていないシュートをしてはならない。危険なシュートは通常ゴールキーパーに向けられ、ゴールを捉えてなくても危険と判定されることがある。危険なシュートは、次のいずれかの組み合わせで判定される:

20.A.8.a ゴールからシューターまでの距離。

20.A.8.b シュートの威力。

20.A.8.c シュートの狙いがどこか(ゴールキーパーの頭部を意図的に狙うなど)。

20.A.9. **ホールディング / ディティニング** : 相手のクロスや体を押さえつける、つかむなどして、選手の動きやバランスを妨げてはならない。

❖ これはヘルドクロス (マイナーファール) (ルール 19.A.14) とは異なる。

20.A.10. **フッキング** : クロスの編みこまれた部分を使って相手選手のクロスのシャフトの端を引っ掛けたり、チェックしてはならない。

20.A.11. **イリーガルコンタクト** : 選手は、腕、足、または体で、相手の体、衣服、またはクロスを拘束したり、引っ張ったり、押したりしては**ならない**。選手は、クロスのいかなる部分を使って、相手選手を叩いたり、押したり、ずらしたりしてはならない。

20.A.11.a 選手は、正当なダブルチームに強引に割り込んだり、相手選手を肩や手で押したり、背中で押しては**ならない**。

❖ 選手には、相手選手がまだ占有していない正当なフィールドポジションを占める権利があるが、相手選手に、接触を避けるために止まったり方向を変えたりする時間や空間を与えなければならない。[ブロックング]

20.A.12. **イリーガルクレードル** : ボールを持っている選手は、正当なチェックを不可能にするために、クレードル有無にかかわらず、クロスを自分や味方の顔や体に近づけて、クロスを守っては**ならない**。

❖ 選手は、相手選手のクロスを正当にチェックすることが許されなければならない。このファールは、正当な守備位置にいる相手側選手に正当なプレーを妨げるために、自分のクロスを頭や体の方に引き寄せたときにコールされる。このファールはしばしば、選手が合法的なダブルチームの中に閉じ込められたり、その中を通り抜けようとしたときに起こる。

20.A.13. **イリーガルディフェンディング** : 守備選手はゴールサークル内で転がるボールまたはバウンドするボールを拾い上げることができる。ディフェンダーはゴールサークル内でシュートをセーブしては**ならない**。

20.A.13.a ゴールキーパーは、ゴールサークルの外に完全に出ている間は、体のいかなる部分でも故意にボールをプレーしては**ならない**。

20.A.14. **イリーガルピック** : 以下のようなピック (動いている / 止まっている) を仕掛けては**ならない**。

- ・ 相手の視野の外から
- ・ 相手が止まったり方向を変えたりするのに十分な時間やスペースを与えずに接触が起こる

❖ ムービングピックは違法ではないが、上記の 3 つの要素が組み合わさることで違法となる。

20.A.15. **ミスコンダクト** : 選手またはチーム / ベンチスタッフは、スポーツマンシップに反する行為や、その他の不適切な言動、行動を取っては**ならない**。

20.A.15.a コーチおよびその他のベンチスタッフは怪我人の発生によるタイムアウトの間、コーチングの目的でフィールドに入ることはできない。(12. A. 14)

20.A.16. **プッシング**：守備選手はシューターやシュートを如何なる方法においても、ゴールサークル内に押し込んだり、妨害してはならない。

20.A.17. **デンジャラスチェック**：選手は、乱暴に、または無謀に相手側選手をチェックしては**ならない**。

20.A.17.a 選手は、相手選手の頭部からフィールドクロス幅（約 18cm または選手の肩幅の距離）以内にある相手のクロスをチェックしてはならない。

20.A.17.a.i チェックの方向は選手の頭や首へ向かっていく方向であってはならない。

20.A.17.a.ii ボールが相手の顔面に向かうようなチェックや、相手のクロスを手で押し込むようなチェックはイリーガルである。

20.A.17.a.iii 相手の頭または首からフィールドクロスの幅の範囲内でクロスを持保持してはならない。いかなる選手も、相手選手の顔または体に向かって、クロスをついたり振ったりしてはならない。

20.A.18. **スワイプ**（カード必須）：選手はクロスを手で相手選手を危険に晒すように大きく振ってはならない。相手のクロスやボディに接触したか否かは問わない。

20.A.19. **トリップング**：選手は故意であろうとなかろうと、相手側選手をつまずかせてはならない。

20.A.20. **ワーディング**：選手は、腕でクロスを手でガードしてはならない。片方の手をクロスの手柄から離れた場合、接触の有無にかかわらず、故意であろうとなかろうと、肘や腕を使って相手選手を押しのけたり、防いだりしてはならない。

シューティングスペース

20.A.21. **シューティングスペース(フリースペースとゴールの侵害)**：このルールは、攻撃チームが MA 内でボールを持保持している場合にのみ適用される。(図 7)

20.A.21.a 守備選手は、体のいかなる部分も、シューティングスペースを妨害する目的でゴールを塞いだり防御したりしてはならない。シューティングスペースを妨害することは、攻撃選手が安全にシュートする機会を奪うことになる。

20.A.21.b シューティングスペースを侵害するとは、守備選手が自らの意志で不正にシューティングスペースに入った場合に起こる。

20.A.21.c 以下の場合、守備選手はシューティングスペースを妨害していない。

20.A.21.c.i **クロスの長さである約 1.5m の範囲内で**、正当にマークしている攻撃選手についてシューティングスペースに入っている／通過している。

20.A.21.c.ii ゴールライン延長線より下に立っている。

■ このコールは、ボールキャリアがシュートを狙っており、シュートする機会がある場合にのみ行われる。

■ ボールキャリアに近づくとき、ボールキャリアからクロスの長さ以内の距離に入るまでは、守備選手の体(クロスではない)はシューティングスペースの外に出なければならない。

■ クロスの長さの範囲内にいて、ボールを持っていない選手にダブルチームディフェンスを行おうとするディフェンダーは、シューティングスペースの対象外。ただし、MA 内に 3 秒以上とどまってはならない。

■ ゴールライン延長線の下に立っている選手は、シューティングスペースを妨げていない。

■ 守備選手は、クロスの長さ（約 1.5m）以内に正当にマークしている攻撃選手によってシューティングスペースに引き込まれ、そこを通り抜けたとしても、シューティングスペースを妨害していることにはならない。

3 秒

20.A.22. 3 秒ルールは、ボールを保持しているチームが、リストレイニングラインを越えて攻撃エリアにボールを入れたときから適用される。

20.A.23. **守備選手はクロスの長さ以内の相手をマークする場合を除き、3 秒以上 MA 内にとどまってはならない。MA 内でボール保持していない相手選手をマークできる守備選手は 1 人だけである。**

20.A.24. 3 秒ルールは、**クロスの長さ**（約 1.5m）以内の攻撃選手を正当にマークしていない MA 内の守備選手に適用される（ルール 24）。

20.A.25. **ゴールサークルの真後ろに立っているノーマークの攻撃選手をマークしている守備選手に、3 秒ルールは適用されないが、シューティングスペースのルールは適用される(20.A.21)**

■ 守備選手 D1 がゴールサークルの真後ろに立っているノーマークの攻撃選手 A1 をマークしているとき、別の守備選手 D2 が直接 A1 をマークするためにゴールの後方に移動した場合は、守備選手 D1 は 3 秒を超えて MA にとどまってはならない。

■ ノーマークの攻撃選手 A1 がゴールサークルの真後ろにとどまっている間、A1 をマークしている守備選手 D1 が、ボールを持っていない相手選手 A2 によってゴール前でのダブルチームに引き込まれた場合、守備選手 D1 に 3 秒ルールは適用されない。

■ 3 秒ルールのファールをしている守備選手の位置が、攻撃選手のゴールへのドライブや MA 内でのプレーに影響する(ダイレクトインパクト)場合に 3 秒をコール/アドバンテージフラッグにするのが望ましい。

攻撃チームがスコアリングドライブをしているときに、3 秒の選手がプレーに影響を与える可能性がある場合は、アドバンテージフラッグを活用する。

一方、ボールがスコアリングプレー中ではなく、プレーに影響を与えていないと判断した場合、3 秒の選手に「アドバンテージ」を与えることができる。(3 秒ルールのファールがあることを示す)

3 秒となる選手は、オンボールであってもオフボールであってもよい。プレーに影響を与えるのにオンボールである必要はない。

B ペナルティ

■ ヘルドホイッスル：審判員は、ファールされている側に不利益を与えることになる場合には、いかなるファールのペナルティ、処置も適用しない裁量がある。つまり、選手がファールを受けたが、ボールポゼッションを維持できている場合、審判員は、ファールを見たことを示すためにその選手が攻撃している方向に腕をまっすぐ伸ばす。攻撃選手がゴールに向かうプレー中にカードが適用されるようなファールがあった場合は、カードはゴールの後に提示されなければならない。(ルール 23)

20.B.1. 守備側のファールによってほぼ成立していたゴールが阻止された場合、審判員はフリーポジションの位置とゴールの間にいるゴールキーパーを含むすべての選手を移動させることができる。ゴールサークルには誰もいない状態とする。

20.B.2. フリーポジションのセットアップの間、守備選手がシューティングスペースにいても、プレー再開の笛が吹かれたときに直ちにシューティングスペースから退けば、シューティングスペースのファールとして罰せられることはない。

以下のすべての状況において、アドバンテージフラッグは挙げられていない

■ アドバンテージフラッグが挙げられた場合のメジャーファールの適用についてはルール 21 を参照のこと。

20.B.3. AFA 外のメジャーファール：

■ フリーポジションを与えられた選手は、ルールに従い、他の選手が 4m 離れる前にセルフスタートすることができる。(ルール 13.A.9)

- ・ 守備選手、攻撃選手、ゴールキーパーがメジャーファールをした場合：
- ・ フリーポジションは、**ファールのあった地点**に設定され、境界線から 2m 以上離れていなければならない。
- ・ ファールした選手は、フリーポジションを与えられる選手の 4m 後方に移動する。
- ・ 他のすべての選手は、フリーポジションを与えられる選手から 4m 以上離れる。
- ・ ゴールキーパーがファールをした場合、ゴールサークルは空のままである。プレーが再開されたとき、守備選手は、転がるボールまたは低くバウンドするボールを止めるために**のみ**ゴールサークルに入ることができる。

■ ゴールサークルは空のままとなる(17.A.15 & 17.A.5)。プレーが再開されたとき、守備選手がゴールサークルに入ることができるのは、転がるボールまたは低くバウンドするボールを止める場合に限られる。バウンスシュートは低くバウンドしているボールではない。

20.B.4. AFA 内および MA 内でのメジャーファール：

■ メジャーファールに対するハッシュマークについては、図 2 を参照のこと。センターハッシュ、ファーストハッシュ、セカンドハッシュはボールキャリアがフリーポジションを設定する際に使われる。サードハッシュはボールキャリアは使用しない（守備選

手を 4m 離れた位置に配置するために使われる)。これにより、MA でのペナルティの管理が迅速になる。

i AFA においてフリーポジションを与えられた選手は、セルフスタートは許されない。ハッシュからのフリーショットの際は、MA 内はクリアにされる

20.B.4.a 守備選手（ゴールキーパーを含む）がメジャーファールをした場合：

- ・ フリーポジションは、**ファールの地点に最も近い MA ライン上のハッシュマーク**に設定される。
- ・ ファールをした選手は、フリーポジションを与えられる選手の 4m 後方に移動する。

例外：3 秒ファールの場合、ボールが AFA の外にあるときに 3 秒ファールが適用されたときは、ファールしたチームの最も近い選手(ファールをした選手ではない)が、フリーポジションを得る選手の後方 4m に移動する。

- ・ 他のすべての選手は、フリーポジションを与えられる選手から 4m 以上離れる。
- ・ 選手の体、クロスとも MA に入れてはならない。
- ・ ゴールキーパーがファールをした場合、ゴールサークルは空のままである。プレーが再開されたとき、守備選手がゴールサークルに入ることができるのは、転がったボールまたは低くバウンドしたボールを止める場合に限られる。

20.B.4.b もしゴールキーパーがゴールサークルの外にいてファールをしていなければ、ゴールサークルに戻ることができる。

例外：ゴールサークル内でシュートをセーブしようとした守備選手に対するファールの処置は、中央のハッシュマークにおいてフリーポジションが与えられ、ゴールサークルは空のままとなる(17.A.16)。

i 守備選手は、フリーポジションを与えられた攻撃選手の隣のハッシュマークに立つ権利がある。

20.B.4.c 攻撃選手がメジャーファールをした場合：

- ・ フリーポジションは、**ファールがあった場所から MA ラインまで最短距離で離れた位置**に設定される。
- ・ ファールした選手は、フリーポジションを与えられる選手の 4m 後方に移動する。
- ・ 他のすべての選手は、フリーポジションを与え得る選手から 4m 以上離れる。

20.B.4.d 攻撃選手がゴールキーパーにファールをした場合、ゴールキーパーは：

- ・ ゴールサークル外に完全に出ていた場合、ゴールキーパーのフリーポジションは**ファールがあった場所から MA ラインまで最短距離で離れた位置**に設定される。ファールした攻撃選手はゴールキーパーの後方 4m に移動する。
- ・ ゴールサークルの内側またはその一部に入っていた場合、ゴールキーパーは**ゴールサークルの内側**でフリーポジションを与えられる。ファールした攻撃選手はゴールサークルの後方 1m に移動する。

20.B.5. AFA 内 & GLE より下側でのメジャーファール：

20.B.5.a **すべての選手**(ゴールキーパーを含む)がメジャーファールをした場合：

- ・ フリーポジションは、**ファールの地点に近いドット**に設定される。境界線から 2m 以内であってはならない
- ・ ファールした選手はフリーポジションを与えられる選手の 4m 後方に移動する。
- ・ 他のすべての選手は、フリーポジションを与えられる選手から 4m 以上離れる。

シューティングスペースのファール

20.B.6. シューティングスペースのファール（ゴールまでのフリースペースの侵害）：

20.B.7. シューティングスペースのファールの笛が吹かれた場合：

- ・ フリーポジションは、**ボールの地点に最も近いハッシュマーク**に設定される。
- ・ ファールした選手は、フリーポジションを与えられる選手の 4m 後方に移動する。
- ・ 他のすべての選手は、フリーポジションを与えられる選手から 4m 以上離れる。

例外：シューティングスペースのファールの笛のタイミングが、シュートが放たれた後で

- ・ ボールがゴールに入った(11.A.2)場合はゴール成立となる。
- ・ ゴールサークル内でゴールキーパーがシュートをセーブした場合、またはシュートがポストに命中した場合はゴールキーパーにポジションが移り、審判員の笛で再開される。

20.B.8. それ以外のすべての状況においては、攻撃選手のファールがない限り、シューティングスペースのフリーポジションが適用される。(ルール 16)

3 秒のファール

ボールが AFA の外にあるとき：

20.B.9. セットアップはルール 20. B. 3 に記載

例外 フリーポジションは**ボールのある地点**にセットされる

ボールが AFA & MA の内側にあるとき：

20.B.10. セットアップはルール 20. B. 4. a に記載

例外 **ボールのある地点**に最も近いハッシュマークにセットされる。

マンダトリーカード(必ずカードが出されるもの)

ルール 23「カードによる警告と退場」を参照

- ・ 頭部へのチェック
- ・ デンジャラスフォロースルー
- ・ デンジャラスプロベリング
- ・ スワイプ

ルール 21 アドバンテージフラッグ

A ルール

21.A.1. アドバンテージフラッグは、攻撃チームが AFA（図 8）内でスコアリングプレー中に守備側が犯したメジャーファールに対するヘルドホイッスルである：

21.A.1.a 審判員は、攻撃側がボールの有無に関わらず、AFA 内のスコアリングプレー中で攻撃選手に対してメジャーファールを犯した場合、アドバンテージフラッグを挙げる。

21.A.1.b アドバンテージフラッグは、スコアリングプレーが完了するか終了するまで挙げ続けられる。

21.A.2. スコアリングプレーが完了または終了するのは次の場合である：

21.A.2.a シュートが打たれる。

21.A.2.b 攻撃チームが、ゴールラインより下へボールをパスまたは運び、当初のスコアリングプレーを継続できなくなった

■ 攻撃チームは、ゴールラインより下にてボールをキャッチ/パスして、新たなスコアリングプレーを始めてはならない。

21.A.2.c 攻撃チームがゴール前でシュートを打つための攻撃を止める。

■ 攻撃チームは、スコアリングプレーを継続するために、ゴールラインより下でボールをキャッチ/パスすることが許される。

21.A.2.d ボールを持っている選手が守備選手によってゴールへ向かう動きが失われる。

■ 審判員は、攻撃チームが優れたディフェンスプレーによってゴールへの前進を失うことを余儀なくされた場合、または攻撃が単にゴールへの動きを止めた場合、スコアリングプレー終了の笛を吹く。

21.A.2.e 攻撃チームがファール（メジャーまたはマイナー）を犯す（ルール 16）

21.A.2.f 攻撃チームがボールを失う。

21.A.2.g 守備選手が、試合を止めなければならないようなメジャーファールまたはマイナーファールを犯す

■ スコアリングプレー中/アドバンテージフラッグが挙げられている間、追加/継続してディフェンスファールがあっても、プレーを必ず止める必要はない。しかし、負傷を防ぐために、スコアリングプレーはいつでもとめることができる。

21.A.3. アドバンテージフラッグが挙げられたら：

21.A.3.a 攻撃チームがシュートを選択した場合、フラッグを挙げることによって示される「アドバンテージ」は終了する。

i シュートが成功した場合、ゴールはカウントされる。シュートが成功しなかった場合、プレーは続行され、審判員はアドバンテージが完了したことを示すためにフラッグを降ろす。

21.A.3.b 次の場合、ファールをされた選手にフリーポジションが与えられる：

21.A.3.b.i スコアリングプレーが追加のファールやシュートなしで終了する。

21.A.3.b.ii シュートが、ファールによって直接かつ即座に影響を受け、アドバンテージが得られなかった

B アドバンテージフラッグが挙げられた時のペナルティ

21.B.1. アドバンテージフラッグが挙げられていない場合のメジャーファールの扱いについては、ルール 20 を参照のこと。

i AFA においてフリーポジションを与えられた選手は、セルフスタートは許されない。ハッシュからのフリーショットの際は、MA 内はクリアにされる。

守備側の追加のファールはなく、スコアリングプレーが終了

21.B.2. アドバンテージフラッグが挙げられた最初のファールが：

21.B.2.a MA 内 -ルール 20.B.4 参照

21.B.2.b AFA 内で GLE より下 - ルール 20.B.5 参照

21.B.3. 3 秒のファール - ルール 20.B.9 & 20.B.10 を参照

i フリーポジションは、フラッグが挙げられた時の**ボールの場所**を基準に設定される。

守備側の後続のファールによってスコアリングプレーが終了

21.B.4. プレーを終了させた後続のファール(メジャーまたはマイナー)が：

21.B.4.a MA 内 -ルール 20.B.4 参照

21.B.4.b GLE より下：

- ・ 後続のファールのあった地点に最も近い MA ラインの**ハッシュマーク**上にフリーポジションが設定される。
- ・ ファールした選手は、フリーポジションを与えられる選手の 4m 後方に移動する。
- ・ 他のすべての選手は、フリーポジションを与えられる選手から 4m 以上離れる。
- ・ 選手の体とクロスは MA 内に入れてはならない。

21.B.4.c シューティングスペースのファール（フリースペーストゥーゴールの侵害） - ルール 20.B.6 参照

21.B.4.d 3 秒のファール - ルール 20.B.9 & 20.B.10 参照

攻撃チームのファールによってスコアリングプレーが終了

21.B.5. アドバンテージフラッグが挙がっている間に攻撃チームがメジャーまたはマイナーファールを犯した場合、プレーを再開するために、AFA の外でスローを行う（ルール 16）

ワーニングカードによってスコアリングプレーが終了

21.B.6. 守備選手がカードを出さなければならないメジャーファールを犯し、攻撃選手がゴールを決めてスコアリングプレーが終了した場合、センターライン上でフリーポジションが攻撃チームに与えられる。ファールをしたチームのセンター選手は、相手チームのセンター選手の横 4m に立つ。

21.B.7. 守備選手がカードを出さなければならないメジャーファールを犯し、攻撃選手のシシュートがゴールキーパーのセーブまたはゴールが決まらずにスコアリングプレーが終了した場合、フリーポジションはルール 21.B.2、B.4、21.B.4 に従って設定される。

ルール 22 ミスコンダクト

22.A.1. ミスコンダクト(不正行為) はメジャーファールであり、審判員は警告(ワーニング)カードを与えることができる。

22.A.2. 選手、コーチ、その他のベンチスタッフは、決してこのような行為をしてはならない

22.A.2.a 乱暴、危険、またはスポーツマンシップに反する行動をとる。

22.A.2.b ルールに執拗に、または著しく違反する。

22.A.2.c 故意に相手の安全を脅かす。

22.A.2.d 侮辱的な言葉を使用する、または審判員の判定に過度に異議を唱える。

22.A.2.e 他人を困惑させたり、嘲笑したり、貶める言動をとる。

例：苦しめたり、挑発したりする。

i 不正行為に相当すると審判員が判断するどんな言動も対象となる。

22.A.3. コーチ、マネージャー、またはその他のベンチスタッフは、以下の行為も行ってはならない。

22.A.3.a プレー中または怪我人によるタイムアウト中に、コーチウォークまたはチームベンチエリアから離れること。

22.A.3.b 不正行為に相当すると審判員が判断する言動をとること。

B ペナルティ

22.B.1. ミスコンダクトに対するフリーポジションとプレーの再開は、メジャーファールとして扱われる。(ルール 20)

22.B.2. フィールド上またはフィールド外の審判員は、チームのコーチ、マネージャー、その他のチームスタッフによる不正行為に対してもワーニングカードを与えることができる。

22.B.2.a プレー再開の遅れを避けるため、交代エリアに近い選手がペナルティを受け、プレー停止の笛が吹かれたときのボールの位置を基準にプレーが再開される。

i 審判員は、プレーを再開する前に、選手がオフサイドでないことを確認すべきである。

ルール 23 カードによる警告と退場

A ルール

- 23.A.1. プレーを停止させるような危険なファール、意図的なファール、ブレイクダウンファールはカードとなる場合がある。
- 23.A.2. **頭部へのチェック、スワイプ、デンジャラスフォロースルー、デンジャラスプロペリング**は、カードが義務付けられている。
- 23.A.3. その他、執拗に発生したメジャーファールに対しては、審判員の裁量によりカードが与えられることがある。(ディスクレーションリーカード)
- 23.A.4. フィールド外の審判員(TO)は、チームのコーチ、監督、その他のチームスタッフによる不正行為に対してカードを与えることができる(ルール 22)。

❗ フィールド外の審判員は、4番目の審判員 TO のことであり、スコアラーやタイムキーパーは含まれない。

B ペナルティー

- 23.B.1. カードが出された選手は、フィールドの外に退場し、退場時間を過ごす。
- ❗ 退場者は、審判員近くの椅子など、決められた場所にいる必要がある。
- 23.B.2. カードによる退場時間は、イエローカードは 2 分、イエロー/レッドカードは 5 分(イエローカード相当のファールが 2 回目の場合)、ストレートレッドは 10 分。
- 23.B.3. 選手またはゴールキーパーがカードを受け、イエローの場合はクォーター残り 2 分以内、イエロー/レッドの場合は 5 分以内、ストレートレッドの場合は 10 分以内に出場停止となった場合、残りの退場時間は次のクォーターおよび延長戦に持ち越される。
- 23.B.4. カードによるペナルティーは、誰がペナルティーを行うかに関わらず、すべてのケースで違反者に記録が行われる。

❗ 例えば、ゴールキーパー(背番号 12)やコーチにカードが出され、背番号 1 の選手が退場しても、背番号 12 やコーチの名前がカード提示者として記録される。

フィールド選手

- 23.B.5. フィールド選手がカードを提示された場合、その選手はフィールドから退き、ルール 23.B.2 に従って適切なペナルティを受けなければならない。
- 23.B.6. フィールド選手がイエローレッドカード(5 分間のペナルティ)またはストレートレッドカード(10 分間のペナルティ)を提示された場合、その選手はフィールドとプレイエリアから退出し、残りの試合時間は出場停止となる。退場時間が終了した後は、資格のある交代要員のみが、その選手に代わって試合に再び出場することができる。

- 23.B.7. 退場時間の間、カードを受けた選手 1 人につき、そのチームは、攻撃エリアと守備エリア(図 9)の選手を 1 人少なくしてプレーしなければならない。退場時間が終了した後は、資格のある交代要員のみが、その選手に代わって試合に再び参加することができる。
- 23.B.8. 退場時間が終了する前に交代要員が試合に参加した場合、そのチームは同じ退場時間を再び与えられる。再び与えられたペナルティの間、攻撃エリアと守備エリアでは、選手を 1 名少なくしてプレーを続けなければならない。

ゴールキーパー

- 23.B.9. ゴールキーパーがイエロー/レッドカードを受けた場合、またはストレートでレッドカードを受けた場合、フィールドから退場し、退場時間が経過後、残りの試合は出場停止となる。
- 23.B.10. チームに 2 人目のゴールキーパーがいる場合：
- 23.B.10.a ゴールキーパーがカードを提示されたら、ゴールキーパーはフィールドを離れ、適切な退場時間をペナルティとして受ける。
 - 23.B.10.b 2 人目のゴールキーパーが出場停止となったゴールキーパーに代わる。違反したチームのフィールド選手で、自チームの交代エリアに近い別のフィールド選手が、退場時間の間フィールドを離れなければならない、その間、攻撃エリアと守備エリア（図 9）にいる選手を 1 人少なくしてプレーしなければならない。
 - 23.B.10.c 自チームの交代エリアに最も近い選手がミッドフィールドにいる場合、プレー再開前にオンサイド(オフサイドにならないよう調整)でなければならない。
 - 23.B.10.d プレーの再開はルール 20 を参照のこと。
 - 23.B.10.e ゴール後にゴールキーパーがカードを提示された場合、2 人目のゴールキーパーが代わりにゴールサークルに入る。プレーを再開する場合は、センターラインでフリーポジションが相手チームに与えられる。
- 23.B.11. チームに 2 人目のゴールキーパーがいない場合：
- 23.B.11.a ゴールキーパーがイエローカードを提示されても、そのゴールキーパーは試合に残ることができ、自チームの交代エリアに近い他のフィールド選手は、退場時間（2 分間）を受けるためにフィールドを離れなければならない、退場時間の間、攻撃エリアと守備エリア（図 9）にいる選手を 1 人少なくしてプレーしなければならない。
 - 23.B.11.b ゴールキーパーがイエロー/レッドカードを提示されたら、他の選手が保護具を着用するために 2 分間のタイムアウトを取り、自チームの交代エリアに最も近い別のフィールド選手が、退場時間(5 分または 10 分) を過ごすためにフィールドを離れなければならない。
 - 23.B.11.c プレーを再開するには、ゴールキーパー(イエロー)またはその交代要員（イエロー/レッド）は、フリーポジションを与えられた攻撃選手の後方 4m の地点に立ち、ゴールサークルは空

のままとする。

- 23.B.11.d ゴール後にゴールキーパーがカードを提示された場合、ゴールキーパー(イエロー)またはその交代要員(イエロー/レッド)はゴールサークルにとどまる。プレーを再開する場合は、センターラインでフリーポジションが相手チームに与えられる。

ルール 24 用語の定義

アドバンテージ フラッグ	アドバンテージフラッグエリア(AFA)内にて、攻撃側の選手のスコアリングプレー中に起きた守備側のファールに対し、審判員は、黄色のフラッグを挙げ（ヘルドホイッスル）、口頭で「フラッグ」とコールする。図 8 参照
攻撃エリア	図 9 参照
ブロッキング	ルール 20.A.2 参照
チャージング	ルール 20.A.3 参照
クリア	ルール 17.A.4 に従い、ゴールサークル内でボールを獲得した守備選手がボールをゴールサークルの外へ移動させるためにとる行為。
クリアスペース	クロスやいかなる選手の体の一部も入れてはならない、選手同士の空間
コーチウォーク	限られた人数のチーム／ベンチスタッフが入ることのできるエリア。図 3 参照
チェックする	守備選手がコントロールされた状態のクロスとクロスの接触によって相手からボールを奪うことを試みること。
デッドボール	審判員が笛を吹いてプレーを止めた時はいつでも、ボールは“デッド”となる。例：ファール後、タイムアウト、アウトオブバウンズなど
守備エリア	図 9 参照
ゴールの真裏	ゴールラインの延長とゴールサークルの交点から、ゴール後方に向かって垂直に伸ばした 2 本の仮想の線の間のエリア。図 8 参照
セーブ	ゴールキーパーがゴールサークル内におり、ボールをクロスでキャッチするか、体の一部またはクロスでボールを止め、ボールがゴールラインを越えるのを防ぐこと。
ゴールライン延長 (GLE)	図 8 参照
グラウンディド	フィールド選手もしくはゴールキーパーの体もしくは足が地面に触れている状態。
ヘルドホイッスル	審判員は、ファールされている側に不利益を与えることになる場合には、いかなるルールも適用しない裁量がある。選手がファールを受けたが、ボールポゼッションを維持できている場合、審判員は、ファールを見たことを示すためにその選手が攻撃している方向に腕をまっすぐ伸ばす。
ゴールサークルの中	選手がゴールサークルラインを踏む、またはゴールサークルの内側にいる時、“ゴールサークルの中”にいと定義される。 -ゴールサークルライン上に残っているボール -ゴールキーパーまたは守備選手の片足/両足がゴールサークルラインに触れて いるか、グラウンディドの状態
合法的クロス	WL 発行のルールブック 付録 G に記載されているメーカーの仕様に適合し、試合前のチェックを受けて合格したクロス。
合法的守備ポジション	合法的守備選手のポジションとは肩幅と同じ幅で、縦幅は体から垂直に腕を前方に伸ばした範囲となる。
マーキングエリア (MA)	図 8 参照

ミッドフィールドエリア	図 9 参照
オフサイド	ルール 18「リストラインングラインルールとペナルティ」を犯した状態
パス	選手によってコントロールされた状態でボールを投げる、跳ねる、転がすことで味方にボールを渡す動作
ピック	ボールを保持していない選手のポジショニング（位置取り）により、相手選手を迂回させる攻撃側のテクニック。合法的なピックは、動いていても静止していても、相手選手の視野内でなければならない。また、相手選手に立ち止まったり進行方向を変えたりするのに十分な時間とスペースを与えなければならない(20.A.14)
ボールがプレーされる	ボールがクロスを離れ、他の選手が触れるか、相手選手にクロスをチェックされるか、守備側のメジャーまたはマイナーファールによりプレーが止まった状態。
ゴールサークル内でのポゼッション	ルール 17.A.1 参照
ポゼッション (ゴールサークル外)	そのチームの選手がボールを持っている場合（プレーヤーポゼッション）、または選手から味方にパスされた場合。 パスとは、ボールをコントロールする選手が、ボールを投げるか、バウンドさせるか、転がすことによって生じるボールの移動をいう。
スコアリングプレー	ルール 21.A.2 参照
シュート	選手が得点するためにボールをゴールの方向に投げる/進めるプレー。
シューティングスペース	MA 内にあるボールの位置から、ゴールサークルの外周に伸ばした 2 本の仮定の接線で区切られた範囲。図 7 のようにゴールラインの延長より後方にいる守備側の選手は、対象ではない。ルール 20.A.21 参照
スポットニアザファール	ゴールラインの中央からファールのあった場所を通る線と MA の半円の交わる半円上の点。
交代エリア	図 3 参照
交代ゲート	図 3 参照
スワイプ	相手選手のクロスまたは体に向かって（接触有無に係わらず）、意図的に悪意を持って、または無謀にクロスを振ること
チーム／ベンチスタッフ	コーチ、アシスタントコーチ、マネージャー、医療スタッフ、選手を含む
センターラインに片足のつま先を付ける	ドロウを行う選手の足は、センターラインにつま先を付けるが、線上に乗ってはならない (13.A.5.a)
視野	選手の周辺視野のこと。選手は周辺視野で相手選手を認識する責任を持つ。選手の周辺視野とは、選手の鼻（肩ではない）を起点とした 180 度の範囲(20.A.14)
クロスの長さ 以内	クロスと腕を伸ばした距離のことで、選手が相手選手を合法にマークしているかを判断するとき、1.5m の距離を視覚化するのに役立つ

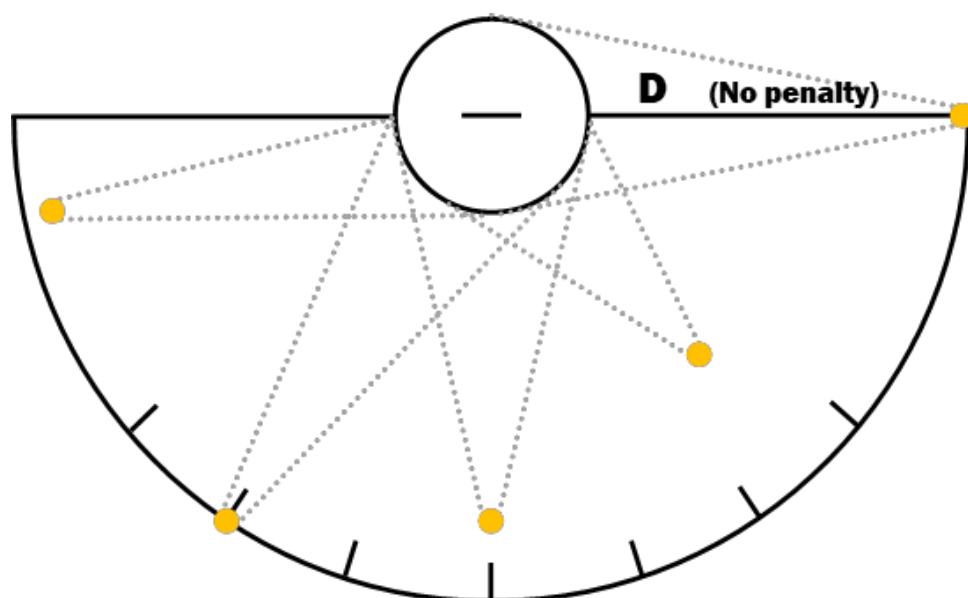


図 7 - シューティングスペース

フィールドのエリア

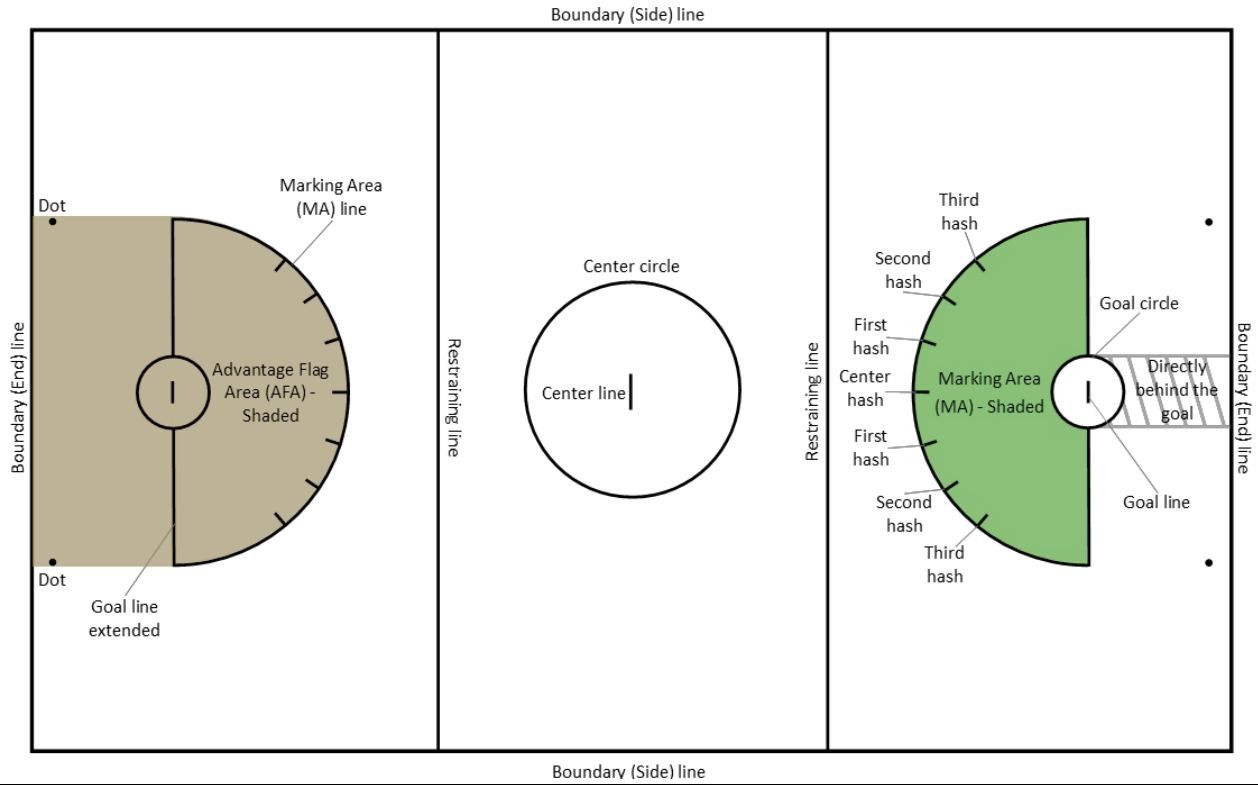


図 8 - フィールドの領域

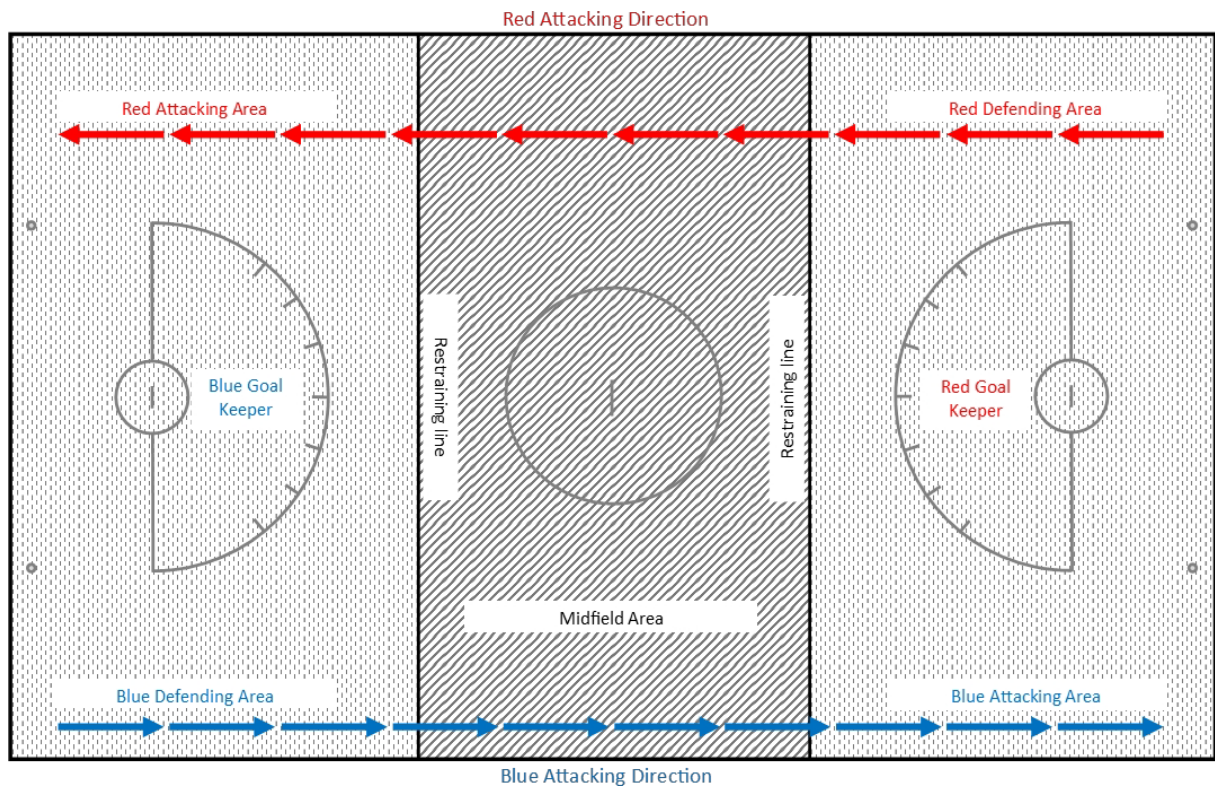
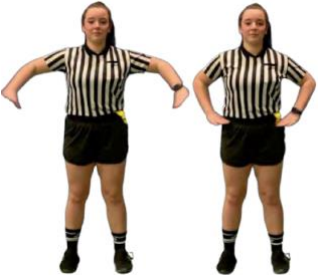
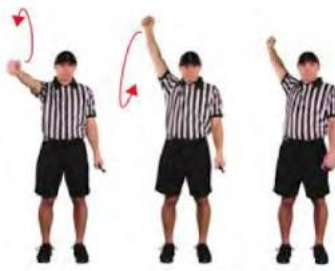
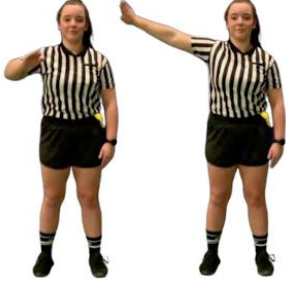


図 9 - リストレイニングラインとエリア

付録 A ジェスチャー

ブロック イリーガルピック 	チャージ オフェンスファール 	頭部へのチェック 
デンジャラスフォロースルー デンジャラスプロベリング 	デンジャラスシュート 	ホールディング ディティニング 
フリーの位置、ポゼッションの方向、ヘルドホイッスル、アウトオブバウンズ 	ゴール フィールドの中央を向き、両腕を頭の上にまっすぐ上げ、胸の高さまで下げる。フィールドの中央に向かって水平に。	ゴールサークルファール アーリーエントリー 
イリーガルプロシーチャー 不正な交代、イリーガルドローなど 	アクロスザボディ 	イリーガルクレードル 

ディレイオブゲーム 1 回目：人差し指、2 回目：ピース 	エンブティークロスチェック 	ノーゴール 
プッシング 	ポゼッション フリーボール 	リストレインイングファール オフサイド 
ラフ/イリーガルチェックオンボディ 	シューティングスペース 	スワイプ 
トリッピング 	3 秒 	ワーディング 
ホールディング ディティニン 	ミスコンダクト 	同時ファール 

スロー アンダーハンドで投げる動作	リドロ 両手を体の前で水平にして、手のひらを合わせ 素早く上へ伸ばす
----------------------	--

付録 B メジャーファールの処置一覧

場所	メジャー ファール した選手	アドバンテージフラッグなし スコアリングプレイ	フラッグ →その後のデ フェンス ファールなし	フラッグ →その後ディフェンスが追加のファール	フラッグ →アタックによるそ の後のファール
AFAの外	ディフェンス アタック ゴールキーパー	(B)：ファールが起きた場所、 境界から2m以内ではない (O)：フリーポジション与えられる選手の4m後ろ (E)：フリーポジション与えられる選手のまわり 4mはクリア	適用されない (アドバンテージフラッグはAFA内でのみ挙がる)		
MAの内側	ディフェンス (ゴールキーパー を含む)	(B)：一番最後のファールがあった場所に一番近いハッシュ(サードハッシュ除く) (フリースペースと3秒はファールがあった時のボールの場所) (O)：フリーポジション与えられる選手の4m後ろ (E)：フリーポジション与えられる選手のまわり4mはクリア+MAをクリア	適用されない		
	アタック	(B)：ファールがあった場所をMAラインへ 延長した場所 (O)：フリーポジション与えられる選手の4m後ろ (E)：フリーポジション与えられる選手のまわり4 mはクリア	適用されない		
AFAの内側 & GLEの下	ディフェンス	(B)：ファールが起きた場所に近いドット (O)：フリーポジション与えられる選手の4m後ろ (E)：フリーポジション与えられる選手のまわり4mはクリア	(B)：ファールが起きた場所に近い MA内のハッシュ(サードハッシュ除く) (O)：フリーポジション与えられる選手 の4m後ろ (E)：フリーポジション与えられる選手の まわり4mはクリア+MAクリア		
	アタック	(B)：ファールが起きた場所に近いドット (O)：フリーポジション与えられる選手の4m後ろ (E)：フリーポジション与えられる選手のまわり4 mはクリア	適用されない		

(B)：フリーポジション与えられる選手の場所
(O)：ファールをした選手の場所
(E)：それ以外の選手の配置

付録 C フィールドクロスのパーツ名

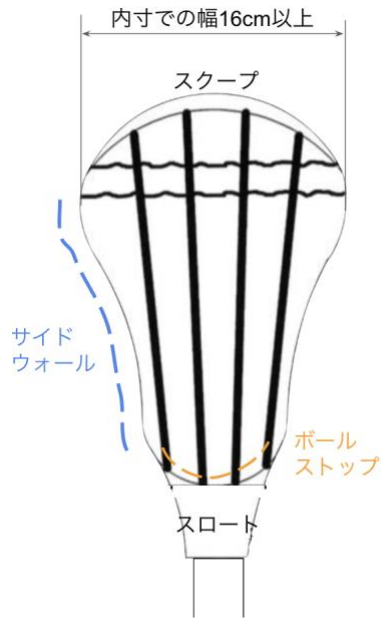


図 10 - フィールドクロス(プラスチック)

2022-2024 年女子国際フィールドラクロス公式競技規

JLA WOMEN'S LACROSSE OFFICIAL RULE BOOK 2025 (2025/第1版)

発行：公益社団法人 日本ラクロス協会

監修：公益社団法人 日本ラクロス協会 女子競技ルール委員

〒103-0011 東京都中央区日本橋大伝馬町 2-5 石倉ビル 1F

電 話 03-3666-2862

©2025, JAPAN LACROSSE ASSOCIATION 無断転載禁止

本ルールブックの記載内容について、ルール解釈等疑義が生じた場合、ルール委員会裁定を最終